

金英達・飛田雄一編

一九九〇

朝鮮人
中国人

強制連行・強制労働
資料集

目次

第一部 新聞記事抄録
第二部 単行本・パンフレット&論文のリスト



神戸学生青年センター出版部刊

発行に際して

今年5月、ノ・テウ大統領の訪日を契機として強制連行の問題がクローズアップされました。マスコミは「名簿探し」に集中するあまり、不正確な情報を流したり、あるいは、ことさら新しい発見でもないことを、過大に報道したということもあつたようです。しかし、今回、従来あまり問題とされてこなかった強制連行問題が、世論の注目を集めたことにより、これまで各地で地道に進められてきた研究の成果が改めて見直されたことはいふことであつたとおもいます。また、新聞報道をきっかけとして、新たな証言が得られたり、さらに研究が進められたという側面も評価できるとおもいます。

いうまでもなく強制連行の問題は、日本近代史において負の歴史として存在しています。そして今なお、被強制連行者に対する補償もまったくなされていなのが現状です。強制連行の歴史的事実を明らかにすることは、現在の私たちにとつてきわめて重要な課題であり、具体的な戦争責任あるいは植民地支配責任のとり方の一つであるといふことができるでしょう。

8月25、26日、名古屋市および岐阜県可児市で開催される第一回の「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」にあわせてこのパンフレットを発行し、今後の強制連行の歴史の研究のための一助となることを願っています。

新聞記事を提供してくださった寺岡洋さん、飛田道夫さんに感謝いたします。

一九九〇年八月二十三日

金英達
飛田雄一

第一部 新聞記事抄録

凡例



ノ・テウ大統領訪日以降、8月22日までの新聞記事のなかから、強制連行強制労働関係の主要な記事を抄録した。

新聞記事は、ほぼ神戸版、阪神版の記事を集めているため、関西地方の記事が中心となっている。補足していただければ幸いである。

千原大造、日誌を著す

強制連行日記。千原大造氏の日記を著す。強制連行関係の主要な記事を集めているため、関西地方の記事が中心となっている。補足していただければ幸いである。

新聞記事は、ほぼ神戸版、阪神版の記事を集めているため、関西地方の記事が中心となっている。補足していただければ幸いである。



新聞記事は、ほぼ神戸版、阪神版の記事を集めているため、関西地方の記事が中心となっている。補足していただければ幸いである。



◇지하철로봇의 이름의 마쓰시로 대본영을 찾아 45년전 『빨리』 저필 일하던 그를 회상하는 澤太(소시).

지옥의 마쓰시로(大本嶺) 징용 생존자 증언

경오 해운이배 1번에 올라타서 10시간 동안... "수백명의 생존자들이..."

“千명사망” 日발표 민감할수 없었... 시사도 선채... 私談하면 못매실

수백명의 생존자들이... 사흘째 계속되는... 11일... 12일... 13일...

후회 21년간까지 딸을 찾지 못했던 일본군 위안부 피해자

「21년간 딸을 찾지 못했으니 후회 21년 동안 계속된 후회...」 **한정애** (64) 씨는 1975년 12월 21일 21살이 되던 해, 아버지를 따라 일본으로 건너왔다. 1994년 아버지가 돌아가셨을 때, 그녀는 딸의 이름을 떠올리며 그날을 되새기며 후회를 했다.

強制連行

名簿、内閣官房で

政府統一見解まとめへ

政府は二十九日の閣議で、盧を要請、中山外相が「厚生省に
奉憲大統領の訪日時に韓国側か
ら協力要請があった戦前・戦中
の朝鮮人強制連行者の名簿づく
りについて、石原官房副長官を
中心に名簿の所在を改めて調査
し、政府としての統一見解をま
とめることを申し合わせた。

名簿については、盧大統領に
同行した崔浩中韓国外相が二十
五日の日韓外相会談の際、協力
要請、中山外相が「厚生省に
奉憲大統領の訪日時に韓国側か
ら協力要請があった戦前・戦中
の朝鮮人強制連行者の名簿づく
りについて、石原官房副長官を
中心に名簿の所在を改めて調査
し、政府としての統一見解をま
とめることを申し合わせた。

本蔵相が「厚生省は旧陸海軍の
軍人・軍属が兵團関係の情報に
ついては援護局で引き継いでい
るが、戦時中に朝鮮半島から強
制連行された人については、担
当外だ。労働者は戦後に生まれ
た役所だから把握していないた
ろう。内閣としての統一見解を
出すべきだ。作業を至急進めて
ほしい」と要請。さらに「名簿
があるとするならば、国立国会

図書館だが、資料が日本に運ば
れているかどうか、見つけ出す

のは非常に難しい」と発言し
た。これに対し、坂本官房長官
が内閣官房で調査、検出する方
針を示し、「未定された。

坂本官房長官は閣議後の記者
会見で、朝鮮人の強制連行の名
簿について「各省庁はもちろ
ん、内閣としても調査したい。

その所在をできるだけ早く突き
止めたい」と説明。朝鮮民主主

義人民共和国（北朝鮮）籍の人
も含めて確認したいとの意向を
示した。調査する名簿につい
て、記者団が「従軍慰安婦も含
まれるのか」と聞いたのに対
し、坂本長官は「当然入るだろ
う」と語った。

ただ、名簿の所在について坂
本長官は「戦中は内務省に資料
があったと思うが、戦後に内務

省も解体され、その混乱の中で
どこかへ行った可能性もある。
資料が存在するかどうかも含
め、念入りに調査したい」と語
った。また、橋本蔵相も閣議後
の記者会見で「外交問題に発展
することは避けなければならな
い。名簿そのものを発見するの
に全力を挙げなければならな
い」と述べた。

強制連行の朝鮮人 市町村に対し 調査を通告へ

政府筋は三十日午前、韓国側が提出を求めている戦前の朝鮮人強制連行者の名簿について「各市町村で保持している戸籍（手がかりが）残っているかもしれない」と述べ、戸籍を所管する法務省を通じて各市町村ごとに戸籍を調べるよう通告を出す考えを明らかにした。

との見方もある。

戸籍残るか不明

大 阪 市

在日韓国・朝鮮人が十二万人と全国で最も多く住む自治体である大阪市の市民局は「かつて朝鮮籍、台湾籍といった戸籍を作ったという記録を辿んだことはある。しかし、実際に残っているかどうかは、調べてみないとわからない。日本人戸籍の場合除籍後も八十年保存することになっているが、問題の戸籍がそろそろ扱いになっていくかどうかははっきりしない」と話している。

個人賠償請求権ない

朝鮮人強制連行で政府 名簿調査には着手

坂本官房長官は三十日午後、参院予算委員会で、戦前・戦中の朝鮮人強制連行者の実態調査について「リストについては古い話だが、法律関係、事実関係を現在、内閣官房を中心に関係官庁と共同して調

査しているのもう少し待つてほしい」と述べ、政府として作業に着手したことを明らかにした。

強行された朝鮮人が日本に対して国家賠償を請求した場合の対応に關し、外務省

の谷野アジア局長は「昭和四十年の日韓基本条約の請求権および経済協力協定で日韓間の問題としては決着済みというのが日本政府の立場だ」と述べ、個人賠償請求権は存在しないとの認識を示した。

このほか竹村氏は従軍慰安婦などについての調査も要求。これに対し有馬内閣外務

省長は「調査中」と述べ

ると述べた。

この問題は先の盧泰愚韓国大統領が来日した際に行われた日韓外相会談の席で韓国側が朝鮮人強制連行者の名簿提出を要求したのを受けて、竹村氏が同委員会で政府の対応をただしたが無端、政府側は「資料がない」を理由に、いったんは要請を拒否したが、中山外相が「調査のうえ報告する」と答弁。さらに二十九日の閣議で「内閣官房を中心に名簿の有無を含めて早急に調査すること」を申し合わせた。

神戸 190.5.31

日、징용韓人 명부 조사 결정

관방장관 "존재 여부 빠른 시일 결론"

【東京=美天編譯관원] 일본 정부는 29일 각의에서 2차 대전이전의 전쟁중에 한반도에서 강제연행된 사람들을 기록한 명부의 所在을 정식으로 조사키로 결정했다.

사카모토(坂本三十三) 관방장관은 이날 각의가 끝난 뒤 강제연행자명부와 관련, 「각별히 물문 내각으로서도 이 문제를 조사해 명부의 존재 여부에 관해 빠른 시일 안에

결론을 내리겠다」고 밝혔다. 사카모토장관은 이어 「戰時에는 내부성이 많은 자료가 있었던 것으로 보나, 전후에 내부성이 해체되는 혼란중이다 못지않게 증거점을 가늠성이 있다」고 말하고 자료의 존재 여부, 있다면 어디서 보관

중인지도 조사하겠다고 말했다. 가이후(海部俊樹) 총리도 「이후」 하루빨리 연행자명부의 소재를 확인토록 하라고 지시했다」고 밝혔다. 이날 일본각의는 연행자명부 소재 여부를 둘러싸고 후생성(省)인민(國民) 관공(官公)의 명부는 보관중이나, 조선인명

부는 없다」고 주장했고 일본 각의는 「한반도에서 한국으로 옮겨졌는지 不明하다」는 등의 견이 엇갈려, 결국 관방장관이 중심이 돼 이 문제를 조사키로 했다.

倭政時被徵用者名簿

번호	성명	출생지	연령	징용일자	소속부대	현주소
1	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북
2	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북
3	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북
4	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북
5	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북
6	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북
7	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북
8	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북
9	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북
10	김정일	경북	30	1942.10	제1군단	경북

◇정부기록 보존소 부산지소에 보관돼있는 「왜정시 피징용자명부」, 시·도별로 나뉘어 징용당한 사람의 이름, 나이, 징용일, 사망여부가 기록돼 있다. <국제신문 제공>

朝鮮日報 90.6.1

日帝 징용자명부 釜山서 보관
6.25후 政府서 申告받아 작성
【釜山=美天編譯관원] 일제때 강제징용된 한국인 명부가 부산시청에 보관돼 있음이 밝혀졌다. 31일 징용기록보존소 부산지소에 따르면 1939년부터

1944년까지 5년간 징용으로 끌려간 한국인의 명단이 19권의 책자와 마이크로 필름 형태로 보관돼 있다. 밝혀진 서류표지엔 「倭政時被徵用者名簿」라고 쓰여 있고 서울 접단(接單)과 시·도별로 구분돼 있다. 이들 명부에 나타난 징용자 숫자는 50만~60만 명으로 추정되고 있다. 가로 20cm 세로 30cm 대와 노트 크기의 습지지에 볼펜으로 쓰인 이명부는 서울지역 징용자의 이름이 적힌 책자의 경우 약 2백쪽으로 1쪽에 15명 정도의 이름이 기재돼 있으며 성명나 이 징용자의 당시 주소 징용연월일 귀환 미귀환 생사 구분 현주소 비고란으로 이루어져 있다. 이 명부는 1957년 우리 정부가 각 시·도를 통해 유족 또는 귀환한 본인 등의 신고와 진술을 토대로 작성한 것이다.

強制連行者

名簿、釜山に現存

明大教授 戦後、韓国側が作成 実物確認

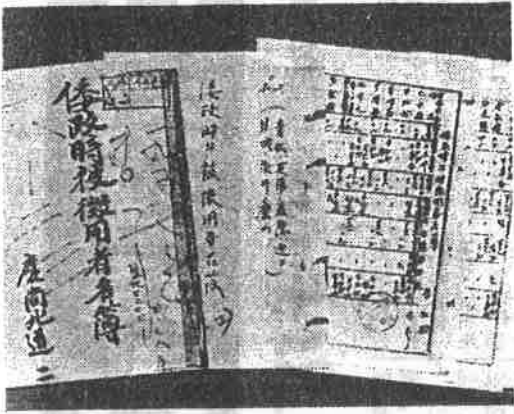
盧泰愚（ノ・テウ）韓国大統領の要請により日本政府が調査、提出を求められている朝鮮人強制連行者名簿が韓国に現存していることが三十日まで分かった。これは韓国記録保存所釜山支所に保管されている「倭政時被徴用者名

急に名簿掲載者の具体的調査を開始すべきではないか」と話している。海野教授は四年前、ソウル大学に留学した時、ソウルの韓国記録保存所本庁にマイクロフィルムに収められた強制連行者名簿があることを知り

た。名簿の原本は釜山支所に保存されていることがわかった。二年前、再び韓国に行き、ソウル大学の安業直教授と協力し、実物を見てきた。名簿には姓名、徴用時の年齢、出身地、徴用年月日、日本からの帰還・未帰還と生死

などについて記されている。中には遺品として骨、灰、髪などの記載もある。海野教授が確認したところでは、名簿は韓国の行政単位である道ごとに分かれている。同教授はこのうち、慶尚北道と慶尚南道の分についてコピーを手にしたが、それだけで名簿掲載者は七方一人八人とわう。この名簿は日本の敗戦後、数年間に帰還者や遺族の話をもとに韓国側が作成したと海野教授はみている。

名簿について厚生省、外務省は「そういうものがあるのは知らない」と言っている。戦時中に強制連行された人たちの証言を集め、映画「アリス」のうた 沖繩からの証言」を制作している作家、朴寿南さんは「そんな名簿があるとほまったく知らなかった。つい最近、海野教授からコピーを見せてもらいました。一人ひとりの名前が書いてあるのを見て、体が震えました。日本にも強制連行者の名簿がどこかにあるのではな



海野教授が入手した朝鮮人強制連行者のコピー

及び腰の日本側対応

強制連行朝鮮人の名簿調査

朝日
190.6.2

政府は、盧臺軍大補領が来日した際、韓国側に約束した戦前、戦中の朝鮮人強制連行名簿の調査に乗り出した。しかし、「資料を管理していた内務省が焼いたらしい」（政府筋）、「このままでは名簿の発見は無理、調査を十分なまま打ち切らざるをえない」（韓国側筋）など実際の作業は難しいのが早くも出始めている。韓国内で名簿の一部が保存されている、との報道に対しても、いまのところ反応は示していない。しかもこの問題にあまり深入りする新たな補償問題を生みかねないという懸念もあって、各首長とも及び腰の姿勢が目立つ。海軍省は一日、記者団に「とにかく全力を挙げて捜すよう、関係首長にはこうしている」と強調したが、このままでは日韓の「未だ未だ」を象徴するこの問題がしらすはみに終わらねない。

新たな補償問題懸念 早くも打ち切り論

日本は一九二〇年に日韓併合条約を締結してから、終戦の四五菲まで朝鮮半島を植民地としてきた。

に配し、その間、国内の労働力不足を補うために、多くの朝鮮人を日本に連れて来た。特に、日中戦争の勃発した五五年、朝鮮半島に五五万人を連れて来た。この間に、日本は約六百万人が強制連行され、約二百万人が死亡したと主張している。日本政府による歴史的事実の隠蔽が長く放り置かれてきた背景には、六五年の日韓間正常化の際に結ばれた日韓請求権・経済協力協定二条で「財産・権利及び利益並びに請求権に関する問題が完全かつ最終的に解決されたことを確認」したといういきつもある。日韓基本条約締結の際、日本から韓国に「賠償」が支払われ、これに戦後補償問題が解決されたという解釈を日本政府はとり続けている。

だが、植民地支配の懸念はなお多くの分野で顕著され、いまも残されているのが実情。強制連行の問題にしても、韓国内では過去の歴史に区切りをつけるためにも、せめて名簿を調査し、強制連行は当時の警察や朝鮮総

統環境の中で、死んだ人も少なくなかったといわれている。しかし、いったい何人が連行されたかという基本データさえ、はっきりしていない。日本の研究者の間では、七十万人前後というのが一つの定説になっているが、例えば、日本による徴用、徴兵などで犠牲になった人たちの遺族をつくる韓国の「太平洋戦争犠牲者遺族会」は「約六百万人が強制連行され、約二百万人が死亡した」と主張している。

先月二十五日の日韓外相会談で、崔相中外相が名簿作りへの協力と謝罪を要請したのは、そうした韓国内の空気も反映ともいえる。【其引き】 崔相に対し中山外相が「厚生に伝える」と約束し、外務、厚生、労働、法務、総務五省庁で名簿の所在を調査する事になった。

政府は米通商手、行政官房副長官が五省庁の担当者を集めて中間報告を求めるとして、六月に最終報告として出版する。また「民族差別三國連綿協定会」代表の李仁敦氏は「強制連行のような事柄については、戦争責任を取ったことに限らず、『戦後』は終わらな

いと思ふ」と指摘している。西独などは、旧植民地出身の戦死者遺族にも本国入並みの補償をしようとするが、日本では旧植民地出身者は遺族年金などの対象外だ。また、一度「決着」させた補償問題は、国内外向けに内閣府を問う、今さら手を離して新たな問題を誘発したくないという空気が各首長に共通してあると見られる。

政府は担当しており、当方は女子としてない（労働省幹部）という姿勢で、日韓や外国人登録を所管する法務省も関係があると見られると懸念をもち、政府は米通商手、行政官房副長官が五省庁の担当者を集めて中間報告を求めるとして、六月に最終報告として出版する。また「民族差別三國連綿協定会」代表の李仁敦氏は「強制連行のような事柄については、戦争責任を取ったことに限らず、『戦後』は終わらな

いと思ふ」と指摘している。西独などは、旧植民地出身の戦死者遺族にも本国入並みの補償をしようとするが、日本では旧植民地出身者は遺族年金などの対象外だ。また、一度「決着」させた補償問題は、国内外向けに内閣府を問う、今さら手を離して新たな問題を誘発したくないという空気が各首長に共通してあると見られる。

「強行連行の名簿が韓国政府に保存所蔵支所にある」という指摘に対し、日本側は「韓国側の資料は韓国で調べればよい」とした（政府筋）と関心をほとんど示さない。

こんな政府の対応について、二十年以上にわたって朝鮮人強制連行の名簿を捜している福同県在住のソフインソン作家の林えい氏は「捜す気がないから見つからないのだ」という。林氏は釜山地区の炭鉱で働かされていた朝鮮人について調べた中で、炭関関係がひそかに持っていた名簿を強盗し、六月に最終報告として出版する。また「民族差別三國連綿協定会」代表の李仁敦氏は「強制連行のような事柄については、戦争責任を取ったことに限らず、『戦後』は終わらな

いと思ふ」と指摘している。西独などは、旧植民地出身の戦死者遺族にも本国入並みの補償をしようとするが、日本では旧植民地出身者は遺族年金などの対象外だ。また、一度「決着」させた補償問題は、国内外向けに内閣府を問う、今さら手を離して新たな問題を誘発したくないという空気が各首長に共通してあると見られる。

「今の教科書 内容は適切」
日韓歴史教育で文部省 文部省の教科書中等教育局長は一日の参事会教育委員会で、日韓歴史教育をめぐって現在両国が取り組んでいる日韓間の歴史教育の推進問題について、「教科書に対しては、昭和五十七年（一九八三年）の官民協賛協議を受けてアジア近隣諸国との国際協定、国際協定に配慮するとの検定基準が示されている。現在の教科書はいずれも厳密に審査した結果、適切であるとされたもので、この基準に適合している。いろいろな教科書があるが、適切なものは学校の教師の問題だ」と述べ、教科書の記述の是非は関連して検定基準や学習指導要領の検討を行ったり考えはないとの考えを示した。

高橋裕子氏（共産）が、「教科書のなかには、日韓の『不幸な過去』については、歴史事実をあいまいにしているケースもあるが、こうした教科書で子供たちの理解は十分だろうか」と質問したに答えた。

強制連行の名簿あった

30年がかり作成

いわき市の炭鉱研究者

福島県いわき市の炭礦問題
研究者が、旧常磐炭田の探検
労働に強制連行され、栄養失
調や事故などで死した四百
十一人の朝鮮人の名簿を戦時
中の資料などを基に作成。所

持していることが一日、分か
った。
強制連行問題については、
政府はよつやく内閣官房を中
心に裏懇の把握に乗り出した
が、当時の公式記録のほとん

どは、戦犯の追及や占領軍総
司令部の目を恐れ、自治体で
焼却、破壊処分されている。
名簿は連行された朝鮮人の氏
名、出身地、生年月日、死因

おり、貴重な資料となりそ
うだ。
名簿は同市好間町中好間照
田四〇、農業大塚一二さん
（全）が作成した「朝鮮人物故
者一覽」と、これを参考にした

大塚さんは「終戦前後には

「朝鮮人の部屋はガラス張り
にし、昼夜、見張るなど、奴
隷扱いと批判されても仕方な
い」と福島大の学術誌で反省
している。

「言えない圧力があり、命懸け
の思いをした。日本国民は強
制連行の問題をほうり出して
世界平和を言う資格はない」
と話している。

集真松台市上本郷二二六一、
学習塾教師長沢秀さん（全）が
まとめた「戦時下常磐炭田の
朝鮮人鉱夫・殉職者名簿」。
昭和十四年十月から二十一年
一月までの六年余りの間に死
亡した常磐炭鉱関係二百九十
二人、好間炭鉱関係五十五人
その他六十四人が記載されて
いる。大塚さんは戦時中に見
聞したことや資料などを基に
戦後三十年近くかけ、寺など
を回って聴き取り調査して集
めた。
全員について①本名の会社
の通り名②本籍地③所属会社
④生年、死亡年月日⑤など十
項目にわたって調べており、
本籍地は蕃地まで記入。全員
の死因を「病死」「ガス爆発」
「落盤圧縮死」などを具体的に
記している。

第二次大戦中、常磐炭田に
約七十人が強制連行された。
当時の状況を、三年前に死亡
した当時の労務担当役員は

神戸 '90.6.2

強制者 人行 朝鮮 名簿ほとんどなし

朝鮮人行 強制者

共同通信 戦犯追及恐れ焼却？

盧泰愚大統領来日の際、韓国側から提出を求められた戦前の朝鮮人強制連行者名簿の行方と保管状況について、共同通信社が全国の都道府県庁などの担当部に二日までに取材した結果、どの自治体にも名簿はほとんど存在してないことが明らかになった。

努力で釜山や軍需工場などの周辺からわずかながら見つかるケースもあり、現代史の研究者は「当時を知る関係者を早急にリストアップし、聞き取り作業に全力を捧げるべきだ」と指摘している。

今回、自治体への調査でわずかながら見つかったのは、北海道立文書館に保存されていた昭和二十年九月二日付の帯広土木現業所の資料。十勝川の護岸工事と飛行場建設などに従事した百四十八人の朝鮮人について出身郡別、本籍地、(強制連行されたからの日本での)住所、氏名、年齢などが記載されていた。

これが「新開をにぎわしている」ので捜してみたが、軍人、軍属以外には名簿はなかった」と言つのは、岡山県や、かつて十五万人が強制連行された旧産炭地・筑豊地方を抱える福岡県。

他の自治体でも「名簿は保管していない」という回答がほとんどだった。中国人の大量虐殺や朝鮮人強制連行で知られる花岡釜山がある秋田県は、その理由について「終戦後、GHQに渡らないよう焼却したの内務省、軍、釜山会社の所管事項で自治体は「蚊帳の外」にあつたから、などと説明している。

戦犯追及を恐れての焼却処分を示唆したのは宮城、愛知などの各県と川崎市の担当部局。

また、戦前からの資料は戦災で焼けたという福井県、県庁の火事で消失したという埼玉県のケースもあった。

兵庫県は「国から調査要請がないので詳しく調べるつもりはない」と回答している。

一方、三菱重工業造船所で被爆した百五十八人の名簿や福島県の常磐炭鉱で事故や栄養失調のため死亡した四百と話している。

十一人の名簿など事業所単位でのリストが民間人の努力で作成されたことが分かった。

韓国内には 8万人の名簿

明大教授ら調査

韓国が日本政府に提出を求めている朝鮮人強制連行者の名簿が韓国内に現存することが二日までに、海野福寿・明大文学部教授らとの研究調査で明らかになった。

海野教授によると、この名簿は釜山市内の韓国記録保存所釜山支所に保管されている「倭政時被徵用者名簿」というリスト。リストには日本の統治下で強制連行された人の氏名、連行当時の年齢、連行年月、帰還・未帰還の別、生などの詳細なデータが記載されている。

同教授は昭和六十一年から

一年間、ソウル大に客員研究員として留学した際、ソウル市の韓国記録保存所にマイクロフィルム化した名簿が保管されているのを知り、二年前に同保存所釜山支所にある原本の一部コピーを入手した。

名簿は韓国の行政単位である「道」別にまとめられており、同教授が入手した慶尚北道、慶尚南道の二道のリストに掲載されている強制連行者だけで七万八千人に上つて

いるという。

名簿は、韓国当局が一九五〇年代に日本からの帰還者や遺族などから事情を聴取して作成したものとみられ、海野教授は「韓国内でも名簿の存在はほとんど知られていないのが実情。日本政府は韓国政府と協力して早急にリストの実態調査をする必要がある」と話している。

同教授は昭和六十一年から

共同通信 戦犯追及恐れ焼却？

神戸 '90.6.3

190.6.5

強制朝鮮人 連行名簿

自治体に調査依頼

担当は労働省 国に資料なく

職前・戦中の朝鮮人強制連行者の名簿の提供を韓国側から求められている問題で、政府は四日夕、首相官邸で石原房副長官を中心に外務、法務、労働、厚生、義務の五省の担当者が中間報告を出し合ひ、対応を協議した。この結果、名簿の存否について有力な手がかりがつかめていないため、今後は調査の対象を地方自治体にも及び、労働省がこれを担当することになった。労働省は近日中に、職業安定局事務課長名で全国の都道府県に調査依頼する。

この日の協議では、強制連行された労働者の管理をこの役所が担当していたかをまず確認した。それによると、一九三八年に実施された国家給付員法に基づいて、勤労計画を推進していたのは企鵝院で、四四年に担当が軍需省に代わった。人員の需給計画は厚生省勤労局が作り、それをもとに地方長官（現在の知事）が具体的な雇用の手続きをしていた。

地方長官の下に職業紹介所があり、労働可能な年齢層の人々の技能などを記載した国民登録名簿を管理していた。この名簿をもとに労働者を呼び出し、体力など適性を検査したうえで、各種の専業場に振り分ける「雇用令書」を出した。

戦前の厚生省勤労局の事務は、四七年の労働省の発足後、労働省職業安定局に引き継がれており、その関係で今後は労働省が中心になって調査を進めることになった。今のところ、労働省が注目しているのは、各職

朝鮮人強制連行
名簿の調査
自治体への依頼
労働省の担当

X

業紹介所が管理していた国民登録名簿で、同省としては、当時の職業紹介所の職員など事情に詳しい人に話を聞き、あるいは地方自治体の公文書館などに資料がないかどうか探すよう、各都道府県に依頼する。

この日の協議では、外務省の担当者から、韓国がなぜこの問題を取り上げたのかについて、韓国外務省に照会した結果も報告された。それによると、日本による徴用、徴兵などで犠牲になった人たちの遺族をつくる韓国の「太平洋戦争犠牲者遺族

会」から、強制連行の実態をしっかりと歴史上の記録に残しておくためにも、徹底的な調査をするよう韓国政府に要請があり、それが今回の日本政府への調査依頼のきっかけで、他の意図はない、という。

これに関して、政府筋は四日夕、「政府としては、この話には戦後補償の問題は一切関係ない」と解釈する。一九六五年の日韓国交正常化の際に結ばれた日韓請求権・経済協力協定で、強制連行者の問題も解決したことが明記されている」と述べた。

X

「強制連行」歴史教育で深める

首相、調査促進も表明 参院 院委

参院予算委員会は六日、平成二年度予算案に対する締めくくり総括質問に入り、社会党の本岡昭次、公明党の太田淳夫、共産党の上田耕一郎各氏が質問に立った。

アジア外相協議を創設



参院予算委で質問する本岡昭次氏（社会）＝国会

本岡氏が戦前、戦中の朝鮮人強制連行者実態調査についてたまたまのに対し、海部首相は「どのような数で、どのような実態だったのか調査するよう指示しており、できる限り早急に報告したい」と述べ、調査を急ぐ考えを表明した。その上で首相は「強制連行は教育現場できちっと教えたい」と述べ、教育を巡って「過去の歴史に対する正しい認識」の徹底を図る考えを強調した。

本岡氏が強制連行者の概数の公表を求めたのに対し、労働省の清水職安安定局長は「資料が保存されていないので有権的に申し上げることはできない」と答弁。さらに本岡氏が従軍慰安婦の実態調査を求めたのに対して、調査に消極的な姿勢を繰り返した。閣議は約十分間中断した。これをを受けて坂本官房長官は「今、一生懸命やっているのだから、もう少ししばらく待つてほしい。押しつらうをうついたりするつもりはない」と述べ、徹底調査を約束した。

中山外相は日本外交の今後推進に関連して「日本の外務省の資料の中に三沢、横田、横須賀、岩国、壱手納の在日米軍基地に核の検知器と、核

事故に対応する部隊が配備されていると指摘した上で、「日

は別」と答弁。さらに海部首相も「米側はわが国の立場および関心を十分理解している。事前協議がない限り核が持ち込まれていないことを確

信している」と述べ核の存在を否定した。

本に核が持ち込まれている明白な証拠」と政府側を直及した。

これに対し、外務省の松浦北米局長は「核兵器の存在と

神p'90.6.7



本紙は、社会党の参院議員本岡昭次氏に、戦前戦中の朝鮮人強制連行者の実態調査を求めた。本岡氏は、戦前戦中の朝鮮人強制連行者の実態調査を求めた。本岡氏は、戦前戦中の朝鮮人強制連行者の実態調査を求めた。

83.08.1972



札幌市の北海道開拓記念館に保管されていた朝鮮人強制連行者の顔写真付き名簿などの極秘資料

人行 顔写真付き名簿
朝鮮連 札幌 金山労働の2500人分

日本政府が韓国に提出を約 十七年の間に強制労働させ 来た戦前の朝鮮人強制連行 者の名簿探しが難航している 百人分の名簿と逃亡記録など が、北海道紋別市の旧住友金 属礦之舞鉱山で昭和十四年か 点もの関係資料が札幌市の北

海道開拓記念館(渡辺左武郎 館長)に保管されていること が九日、分かった。このうち 約二百人の名簿については思 想傾向など詳細な個人的デー タのほか逃亡防止用の顔写真 も付いていた。

朝鮮人強制連行者の名簿は 福島県・旧常磐炭田などでも 見つかっているが、顔写真付 きの名簿が出てきたのは初め てとい、現代史の研究者は 「第一級の史料 国は早急に 各地の博物館などについて も調査すべきだ」としてい

今回見つかった資料は、か つて東洋一の金山として知ら れた同鉱山が四十八年に閉山 した際、北海道開拓記念館が 寄贈を受けた。

「昭和十四年度以降 半島 人労働者名簿 労働係(勤労 係)と監で書かれた台帳(縦 二七センチ、横二〇・五センチ、厚さ 約三センチ)の表紙には赤筆で「永 久保存 取扱い丁寧にして下 さい」と注意書きがしてあつ た。この中には十四年十月七 日から十七年九月二十二日ま での間、二十三回に分けて強 制連行してきた朝鮮人計千

五百四十四人の氏名、生年月 日、本籍、家族関係などが記 載されていた。

この台帳を基にさらに詳細 な名簿が数種類作られていた が、上半身の写真が添付され ていたのは十七年三月から五 月にかけて連行されてきた慶 尚南道、京畿道などの出身地 別に作った「雇入審査表」を とじ込んだ写真名簿。この中

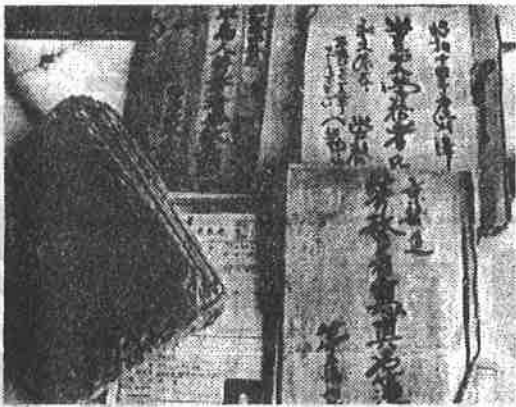
には、態度、知能程度、性質、 思想傾向などのチェック項 目があり、「無学、内地語解 せず」「温順、二見ユルモ勝気 者」などの記述もあつた。写

真の付いた名簿は全部で百九 十人分だつた。

また「半島人労働者事故名 簿」には一時帰朝者百六人、送 還二百六十九人、逃亡四百四 十人、死亡四十五人の名前が あり、鉱山経営にとってアラ スにならない材料はすべて事 故処理扱いだったことが分か る。

さらに、「昭和十七年度分 半島人逃亡関係簿(つづ り)」という厚さ約五センチの台 帳の中には、「半島労働者取 扱へ深謝ス」と鉱業所長が警 察署長にあてた電文や逃亡者 の出た寮から労働係長に上げ た詳細な逃亡状況報告書など が入っていた。

神代重の 日本つて言真会不 韓国の8人



2500人分の名簿現存

北海道紋別市にあった旧住友金銅鑛之舞鉦山に昭和十四年から十七年までの間、強制連行された朝鮮人労働者二千五百人余りの名簿、逃し記録など極秘扱い文書を含む多数の関係資料が札幌市厚別区の北海道立開拓記念館（渡辺左武郎館長）に保管されていることが判明した。

資料は「昭和十四年度以降半島人労働者名簿」と表紙に記された舞鉦山台帳など四十一冊、同鉦山が昭和四十八年に閉山した際、同開拓記念館が譲り受けた。「労働者名簿」の表紙には「労働係（勤労係）」と記されていたほか、「永久保存」という注意書きがあり、同鉦山の労働担当者の作成によるもの。この名簿は、同十四年十月七日から十七年九月二十日までの間、二十三回に分けて強制連行してきた朝鮮人合わせて二千五百四十四人の氏名、生年月日、本籍などが記載された舞鉦山台帳。



沖繩の町史に 670人分の名簿

強制連行

韓国の盧泰愚大統領が五月末に来日した際、日本政府に提供を要請していた戦前の朝鮮半島からの強制連行者の名簿の一部が、沖縄本島北部・本部町発行の「本部町史・資料編」（一九七九年発行）に収録されていることが十三日、関係者の指摘でわかった。名簿には軍夫として編成された六百七十人の階級、認察（認證書）が記されている。連行者名簿は終戦前後に政府が廃棄処分したものが多く、自治体が公の資料に、これだけのもまいった形で収録しているのは極めて異例。本部町では「公開している資料なので、政府が必要ならば、県を通じて提出したい」と話している。

本部町史に収録されている名簿は沖縄戦当時、強制連行された朝鮮人の「軍夫編成表」。旧日本軍の特設水上勤務第一〇四中隊の「陣中日誌」に記録されていた。同中隊は沖縄本島北部の本部半島一帯に配備され、朝鮮人軍夫は、軍用物資の搬送、運搬、道路工事などに従事していた。

町史によると、軍夫は、指揮班（約三十二人）と三小隊九分隊（各約七十人）の計約六百七十人。階級は、軍夫長、組長、組員とランク付けされ、氏名とともに三けたの数字の認察が記録されている。

日誌掲載分は町史の約百五分で、名簿は「士」にわたって、氏名などが並んでいるが、性別、年齢、出身地などは不明。町史の資料集は、「沖縄戦」がどのように展開されたかを紹介する過程で、沖縄本島北部に配備された部隊の行動を裏づけた軍資料を集めた。

朝鮮人軍夫の名簿が出ている「一〇四中隊」の陣中日誌は、昭和十九年九月一日から同月三十日までの間、毎日の作業場所、人員、指揮者名、作業内容を記している。

本部町の田中英治教育長は「昭和十九年、二十年当時、今の本部小学校に海軍の陸隊が駐留しており、そこに多くの朝鮮人軍夫もいたように思う」と話している。

旧鉱山で朝鮮人名簿

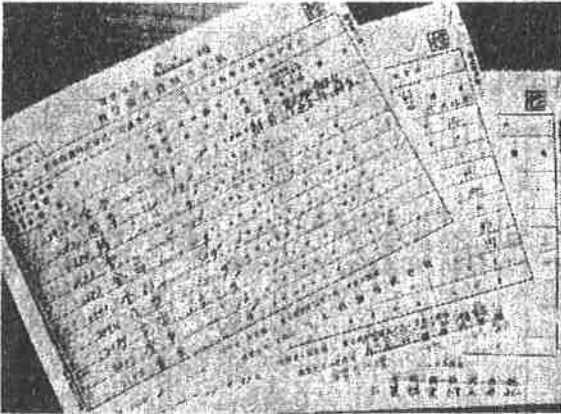
179人分の二世グループ入手

強制連行示す記述

「他社にもあるはず」

兵庫の旧鉱業所

静岡中、日本精糖(本社・東部の旧出瀬製錬所〔兵庫県養父郡開府〕)で働いていた朝鮮人百七十九人の名前が、強制連行を調べている在日二世らのグループ「兵庫朝鮮関係研究会」が入手した厚生年金被保険者資格喪失届で手っ、明らかになった。研究員は強制連行を意味する「集団移入労働者」の記入がある。先の日韓友好会談で韓国側が日本に対し、「朝鮮人強制連行の名簿を入手したい」と表明したが、政府の調査は難航している。同研究会は「当時、各企業は労働管理の必要から朝鮮人労働者の名簿を作ったはずだ。政府が本気で調査するなら、関係企業に名簿の提出を求めろ」と指摘する。



届った様子がわかる厚生年金資格喪失届

(兵庫朝鮮関係研究会提供)



中瀬製錬所 日本有数の採掘地。一九三五年から操業を始める。船中製錬設備増設に基き三製錬業が委託経営。軍需品として備蓄が高品質アンチモンは、鉛と銅とて語りや清水廠のバッテリーに使われた。六七年に閉山。現在は輸入アンチモンの精製をしている。

入手した被保険者資格喪失届に三製錬業の社名がある。敗戦は、一九四二年二月から四五年の四十五年八月十五日以前が十一月までの分、日韓併合の用紙二十枚、一枚に十人の後の名前が記入され、欄外に日本精糖と、当時委託経営していた東京精糖の「一〇」など記されている。資格喪失の原因は、四十五年以前は金欠が「解雇」「解用」で理由は三十九人が「逃走」「死亡」だが、ほかは不明。敗戦直後の四十五年十月以降はすべて朝鮮人となっていた。

同研究会は、「二世の足跡をさぐらんと調べよ」とまとめた兵庫県内在任の在日二世のグループ。四十年前、地下の鉱山、土木工務業、軍需工場や当時の国策を助ける働きを続けている。

同研究会では、生野、明達鉱山など八ヶ敷山で強制連行の朝鮮人が働いたことが判明、少なくとも三千余人がいたと推定されていると述べている。

同研究会のメンバー金澤順二(キム・キョンヘン)さん(88)は「社史に朝鮮人労働者の実態を記している企業もなく、裏付け資料を持っているはず。企業も自らの手で明らかにならない限り、戦争責任を取ったことにならない」と話している。

現在の日本精糖出瀬製錬所は「戦後もなく事務所が移け、

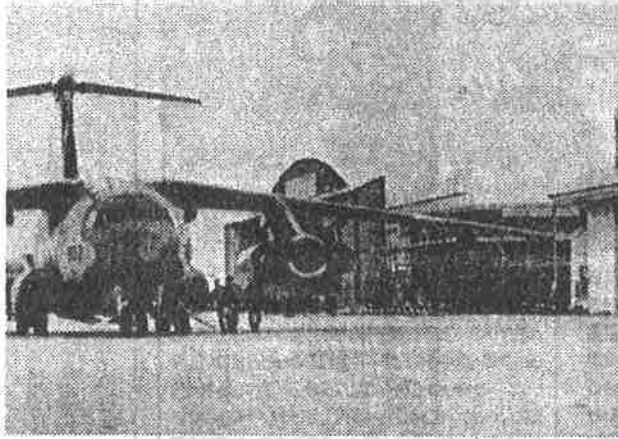
朝日 '90.6.13

朝鮮人の歴史を
研究する会

政府は協力依頼せよ
竹前栄治・東京経済大教授
(元精糖)の経 今更つかう
た資格喪失届は、貴重なものだ。研究会の努力に敬服する。強制連行関係の首尾資料は、敗戦後整理され、ほとんど残っていないと思う。まともなものを手に入れば金銭どう。経

強制労働の実態生々しく

旧海軍の美保基地建設工事



C1輸送機が駐機する航空自衛隊美保基地

徴用朝鮮人の肉声保存

戦時中、旧海軍が突貫工事で建設に着手した美保基地（鳥取県境港市）で強制労働させられた朝鮮人徴用労働者の証言記録が、鳥取県内の在日朝鮮人の手で保存されていることがこのほど分かった。同基地建設での朝鮮人労働者に関する記録は少なく、貴重な資料として注目される。

鳥取朝鮮商工会
金理事長が録音

記録を保存していたのは同 さん全。金さんは昭和四十
具米子市榎原一七五ノ三、鳥 七年、同県出身の委託職員吉
取県朝鮮商工会理事長金政守 田達勇さん全。当時県会議

員川と旧日本航業岩美鉱山（同県岩美郡岩美町）の朝鮮人労働者の追跡調査の傍ら、独自に美保基地の朝鮮人労働者の証言をテープに録音。調査当時、鳥取県安来市に住んでいたAさんの証言によると、昭和十八年十月、徴用で福井から二十六人の同胞と一緒に美保基地に回され、終戦まで働かされた。同時期に

京都などから約百五十人の同胞が連れて来られ、十九年ごろからは「新工員」と呼ばれる朝鮮人労働者が大量に本国から運ばれてきたという。また、十六歳のとき運ば

差別と酷使の日々

「差別と酷使の日々だった」。戦時中、旧海軍の美保基地（鳥取県境港市）で強制労働させられた朝鮮人の証言記録が鳥取朝鮮商工会理事長金政守さん全の記録保存で明るみに出たが、録音された肉声から改めて、当時の悲惨な状況が浮き彫りになった。

れ、列車も基地側の窓はよろい戸を下ろして走った。当時、美保基地の建設に従事した労働者は約三千人で、半数以上は朝鮮人労働者だったという。

徴用で福井から美保基地に送られたAさんによると、連行や徴用で集められた労働者は四個中隊に分けられた。一日の生活は午前六時起床し同七時に朝食。同八時から午後五時まで労働となっていたが、一日に何時間も残業をさせられた。

る仕事で、滑走路、宿舎、待避、こつ掘りなどもした。少しでも怠けるとビンタ（平手打ち）が飛び、棒などで殴られた。当時、一般の作業員は日給一―三円もらえたのに、美保基地では一カ月八十銭だった。

美保基地は日中戦争が進む昭和十四年、旧海軍が突貫工事で建設に着手。同十八年に第一期工事が終了したが、軍事機密とあって旧国鉄との境界線沿いには高い塀が立て

作業は山を削り、海を埋め

仕事の内容、外出目的、行く先を聞かれ、きつんと言えない者は有無を言わさず逮捕され、南洋など二度と帰れない所に送られたという。

貴重な証言記録

朴慶福さん（近・現代史研究）の証言。当時の「特高月報」などから概算して、一九三九年（昭和十四年）七月から一九四五年（昭和二十年）八月までに日本国内の徴用約六十万人、軍需工場に約四十万人、土建工事関係に約三十万人、港湾荷役に約五万人、合計で約百五十万人の朝鮮人が強制連行で働かされていたと

みられる。美保基地の場合、実態がよく分かっていないので、徴用労働者の証言は貴重な記録となる。

神戸 90.6.13

鳥取の米米く

17

いそ

右派をいかに何人並
り敵軍、いかに何人並
りたが統率にまたらる
た。

つき前日本政府も
人の間である。その存
とも存に、もとも種に延
定無致し「國家面」の改
行した。こもかわらず、その
統率、財源、物資の統率
開明解決し「但し精神が
なればよいのである。

実態を隠匿

日本陸軍は常に「危機を
めはし、おぼろげに、危機を
おぼろげに、おぼろげに、

「國家面」に統一して行
隊の進歩、進歩、進歩、
「國家面」に統一して行
隊の進歩、進歩、進歩、
「國家面」に統一して行
隊の進歩、進歩、進歩、

はい日本政府

「は言葉だけ？」

市民が調査

二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。

二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。

二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。

二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。

二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。

二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。

二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。

二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。
二千万は支連した。



伊丹市立博物館に保存されている「空留留書」の複製本。二万八千六百六十六世帯、約千人の空留留書の複製本が、その中には強制連行者も含まれるという。

戦後補償はこれから

はたが、何と公認するに
「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。



「空留留書」を蔵し、本
格の調査を始める。

1919.06.16 日経新聞

朝鮮人名簿 北海道にも400人分

朝鮮人強制連行の擧げられた船隻は、(現)の札幌警察署のカードに記した名字の数が日詰問で問題になっている。開山した万字炭鉱、日暮「鉱夫名簿」が炭鉱1ル層一が、四半分以上の名簿を名天釜炭鉱、住友金銅の編成積、千人分。北伐関係では、計百三十名の朝鮮人労働者山の事業所が、回念館に寄る。採炭「十九」之題した冊子に、朝鮮からの到着報告書を送付した者が、計百八分と記された。本報に分かつた。約一万五千の朝鮮人との名簿では、本報は、北道連行に送らるる北道連行地、炭坑構成は、一人一人に

兵庫朝鮮関係研究会 戦時中の強制連行で

山下26社に資料公開要望

戦時中の朝鮮人強制連行の現況を調査している「兵庫朝鮮関係研究会」(会長代表)は十八日まで、同会の調べで連行された朝鮮人が働いていた会社、中に大社に於いて、連行者の名簿など資料を公開するよう求める要請書を送った。働くとはいった記録は、兵庫県下、北山や工場、埋土工場等明らかにしている。三笠製鉄業(現三笠製業システム)、川崎重工業(現川崎重工業)の朝鮮人強制連行の資料を公開するよう求める要請書を送った。働くとはいった記録は、兵庫県下、北山や工場、埋土工場等明らかにしている。三笠製鉄業(現三笠製業システム)、川崎重工業(現川崎重工業)の朝鮮人強制連行の資料を公開するよう求める要請書を送った。

兵庫県下の企業は、兵庫県下、北山や工場、埋土工場等明らかにしている。三笠製鉄業(現三笠製業システム)、川崎重工業(現川崎重工業)の朝鮮人強制連行の資料を公開するよう求める要請書を送った。働くとはいった記録は、兵庫県下、北山や工場、埋土工場等明らかにしている。三笠製鉄業(現三笠製業システム)、川崎重工業(現川崎重工業)の朝鮮人強制連行の資料を公開するよう求める要請書を送った。

日経新聞

1919



吉田 清治さん

「名簿などの関係書類をドラム缶で焼き、灰はスコップで海に捨てました」。千葉県在住の吉田清治さんが話した。敗戦直後の八月下旬のことだった。吉田さんは戦前

「名簿を私は焼いた」

戦犯恐れ、6千—1万人分

千葉の吉田さん

山口県労務報国会下関支部勤務部長として実際に「被用」の名目で多数の朝鮮人を強制連行した。内務次官の指示に基づき、「記念写真も含め、朝鮮人に関する資料をすべて焼却せよ」という県知事の緊急命令書が、警察署長あてに届いた。吉田さんは丸四日かけて、下関警署の裏で、同支部にあった徴用関係書類をドラム缶で焼いた。六千—

一万人名の名簿も含まれていた。「強制連行の実態が明らかになると、関係者は戦犯にならねない。だから、米軍が来る前に、証拠隠滅を図ったわけだ。当時、自分もそれが当然と思っていました」

労務報国会は、戦時体制の中、炭鉱などの人手不足を解消するため、昭和十七年に全国各地の警察単位につくられ、労務動員を担当した。日本国内には徴用できる人材が少なく、朝鮮

人の強制連行が主な仕事だった。吉田さんは敗戦まで約三年間、強制連行の実務責任者として七、八回、朝鮮半島に渡った。地元警察署員らが集積を再開したあと、吉田さんらが家の中や畑で作業中の朝鮮人男性を強引に引きずり出し、次々と護送車に乗せた。抵抗すれば木刀で殴り倒した。数百人を下関に運出した後、貨物列車に乗せ、炭

鉱などに送り込んだ。「自分は戦争犯罪人。その罪と責任は死んでも消えないでしょう。強制連行の管行資料はもはやないと思うが、企業や市町村レベルで、少しでも手がかりがないか、探すべきです」

吉田さんは戦後、炭鉱などで酷使されて死んだ韓国人の遺骨返還運動や、六年前には韓国天安市の「種痘の丘」に私費で「日本人の謝罪碑」を建立するなど、自らの戦争責任を問いつけている。

「同じやり方で多くの朝鮮人女性を従軍慰安婦として連れ去ったこともあります。当時の私は、徴用の鬼、といわれて誇りに思っていました。朝鮮民族の人たちには、死後も謝罪し続けなければならぬという気持ちです。到底許されるとは思っておりませんが」



神戸

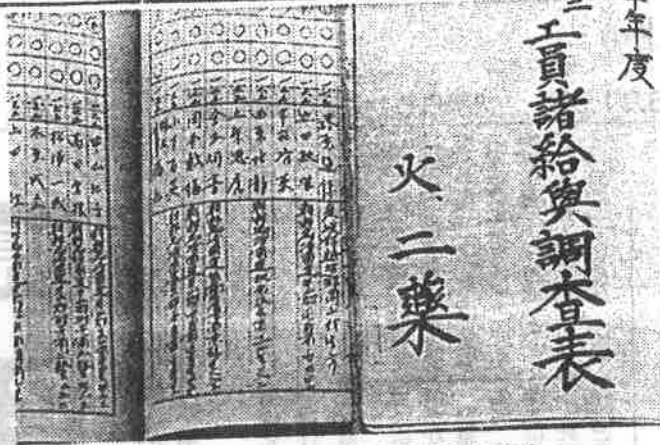
県下26社に資料公開要望

兵庫朝鮮 戦時中の強制連行で 関係研究会

戦時中の朝鮮人強制連行の実態を調べている「兵庫朝鮮関係研究会」（徐根植代表）は十八日までに、同会の調べで連行された朝鮮人が働いていたことが分かった企業二十社に対して、連行者の名簿など当時の資料を公開するよう求める要望書を送った。

送付先の企業は、兵庫県下に鉱山や工場、地下工事現場などを持っていた三菱鉱業（現三菱鉱業セメント）、川崎重工業、神戸製鋼など。いずれも朝鮮人労働者がいたことが分かっているが、人数や勤務先などについては明らかになっていない。要望書には「各企業では当時、逃走防止用の連行者名簿をはじめ天引き預貯金の原本、死亡届、配給切符の申請書などを作成、大企業では労働者名簿を保存している。直接企業を訪ねるなどして資料を公開してほしい。」と記している。

料公開を求めたが大半は「資料はない」と門前払い。中には朝鮮名の会員の求めには「ない」と答えていた資料が日本人の名前で求めると出てきたこともあったといい、概して公開に消極的だという。会員の一人、苳祥進さん（三宅）は「西ドイツなどは、ユダヤ人を強制労働させた企業が自身で数千万円の補償金を支払っている。日本の企業も反省の姿勢があるなら資料を公開し、積極的に真相を明らかにすべきだ」と訴えている。



豊川市が保管、朝鮮人の名前が記載されている豊川海軍工廠の工員名簿

朝鮮人強制連行者名簿

海軍工廠の150人分見つかる

豊川

戦前の朝鮮人強制連行者二十年度復員に伴う工員諸給與調査表。海軍野(けい)紙に動員学徒、女子てい身隊、徴用工員らの名前と本籍、給与などが書き込まれている。日本に強制連行されてきた朝鮮人の名前は、薬きょう第一、第二工場、木工工場の部分にまとめて掲載され、慶尚南道や忠清南道など朝鮮半島南部の出身地の住所まで細かく記載。欄外には「戦死」の付記もあった。

同工廠は、ゼロ戦の機関銃などを作り、三万人以上が働く東洋最大の兵器工場。終戦直前の昭和二十年八月七日、B29の空襲を受け、死者二千五百人以上の被害を出した。

関係者の話では、名簿は空襲後、被災者の把握と離散した工員に給与や退職金などを送金する残務整理作業で作成された。

同市が複製を保管しているもので、工廠のうち信管に火薬を装てんする火工部の約一万九千人分の「昭和

名前の記載されていることがわかった。当時の陸・海軍所管の工場での発見は初めて。

戦前の朝鮮人強制連行者二十年度復員に伴う工員諸給與調査表。海軍野(けい)紙に動員学徒、女子てい身隊、徴用工員らの名前と本籍、給与などが書き込まれている。日本に強制連行されてきた朝鮮人の名前は、薬きょう第一、第二工場、木工工場の部分にまとめて掲載され、慶尚南道や忠清南道など朝鮮半島南部の出身地の住所まで細かく記載。欄外には「戦死」の付記もあった。

爆死... 英 陽 新 報 ... 千 餘 名 的 生

日 大 本 營 公 司 查 査 金 錫 智 씨 폭 로

태평양전쟁 말기 일제가
지하지뢰부설로 건설했던 마
쓰시로(松代)大本營의 공사
현장의 강제 노동자들의 참상
이 당시 광천지대의 광천
를 해방하고 있다.

영천군 지인 44년 11월 부하
45년 8월 15일 한복판까지
9개월에 걸쳐 동양 사설부
3월 31일 1945년 8월 15일
영천지인 44년 11월 부하
45년 8월 15일 한복판까지
9개월에 걸쳐 동양 사설부
3월 31일 1945년 8월 15일

구회(대표 박흥환)의 과외
대사학과 교수)는 그간의 관
련자로 수첩을 토대로 대본영
공사와 관련된 2명의 중년
을 찾아내 19일 서울 프레스
클럽에서 영천군 지인 44년
11월 회사로부터 6개월여
간 인부노조 직지 않았다고
금씨가 회고했다.

6千5百명 지하호전설 강제 勞 役 숨지면 채굴된 후 에 섞어 暗 葬 시켜

영천지인 44년 11월 부하
45년 8월 15일 한복판까지
9개월에 걸쳐 동양 사설부
3월 31일 1945년 8월 15일

영천지인 44년 11월 부하
45년 8월 15일 한복판까지
9개월에 걸쳐 동양 사설부
3월 31일 1945년 8월 15일

있으며 사망자는 채굴된 후
과 함께 수괴의 신탄 현장의
서 2월 2일 오전 3시에 매장됐
다는 것.

한복인 부하인 대부분 발
파장영천군 지인 44년 11월
영천지인 44년 11월 부하
45년 8월 15일 한복판까지
9개월에 걸쳐 동양 사설부
3월 31일 1945년 8월 15일

한편 이날 영천지인 44년
11월 회사로부터 6개월여
간 인부노조 직지 않았다고
금씨가 회고했다.

영천지인 44년 11월 부하
45년 8월 15일 한복판까지
9개월에 걸쳐 동양 사설부
3월 31일 1945년 8월 15일

영천지인 44년 11월 부하
45년 8월 15일 한복판까지
9개월에 걸쳐 동양 사설부
3월 31일 1945년 8월 15일

90. 6. 20.

명부戰死者 遺族의 고통

日「마쓰시로慘狀」金錫智씨 증언

일본의 마쓰시로 대포영 공사에서 근무자를 이진섭(한겨레)을 비롯해 위 한「마쓰시로 대포영 지하 호진장 부교」가 19일 오전 11시 서울 프레스센터에서 열었다.



◇일본의 마쓰시로 대포영 공사에 참여했던 김錫智씨가 국내 거주 생존자로써 처음으로 공개증언을 하고 있다. <사진=李明元기자>

최소 5백여명 희생... 대부분 暗葬

6천5백여명 이동된 영수식 위

이진섭(한겨레)은 대포영 공사가 종업원들과 지회사 노무제법단체사단 및 5백80여명의 희생자를 낳은 전쟁 전후인 것이다. 『대포영 대포영사의 공사가 3천여명의 희생자를 낳았으나, 45년 8월 15일 종전 후의 한민군이 비밀 영장 시루대포영 지하 호진장에

이인형과 피의 최수 등 50명의 영수를 공개했다. 『50명의 영수를 공개했다. 『50명의 영수를 공개했다. 『50명의 영수를 공개했다.』

영수증이다. 『대포영 공사에 참여했던 김錫智씨는 대포영 공사에 참여한 6천5백여명 이동된 영수식 위...』

김錫智씨는 『대포영 공사에 참여한 6천5백여명 이동된 영수식 위...』

『대포영 공사에 참여한 6천5백여명 이동된 영수식 위...』

<朴澤源기자>

'90.6.19

명부戰死者 遺族의 고통

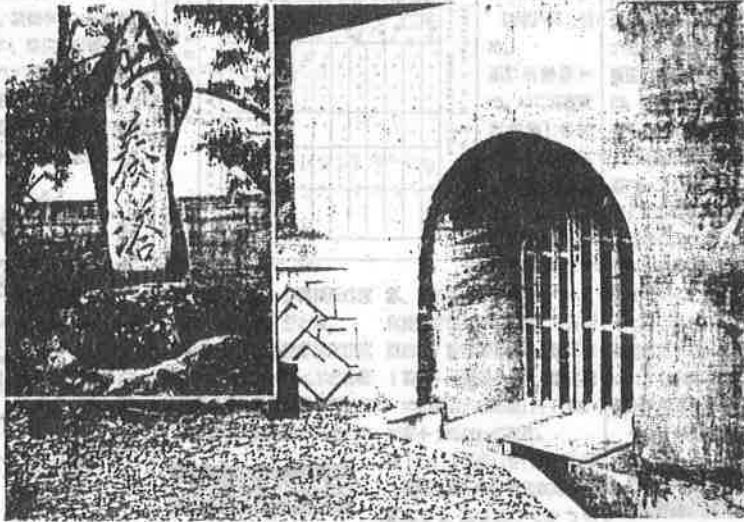
日정용 재무부서 일부 보관

【釜山訊】 日정용 재무부서 일부 보관... 『대포영 공사에 참여한 6천5백여명 이동된 영수식 위...』

전체 희생자는 일본군 산지부 총무 (安相浩씨) 50명, 海軍工兵 1중대 78명(19) 등이다. 『대포영 공사에 참여한 6천5백여명 이동된 영수식 위...』

国は名簿作成急げ

旧・岩美鉦山口と鳥取大震災で生き埋めとなった犠牲者の供養塔



「鳥取」第二次世界大戦中に朝鮮半島から強制連行された人びとの名簿が大きなクローズアップされているが、鳥取県では、社会党県本部委員長で参議院議員の吉田達男さんが旧日本鉦美鉦山で強制労働させられていた六十四人の名簿を保管。「国は一日も早く強制連行者の名簿の作成を」と訴えるとともに、埋もれた情報の提供を呼びかけている。

埋もれた情報の提供を呼びかけ

社会新報
'90.6.22

鉦美鉦山や山陰線

旧岩美鉦山の強制労働 基地や山陰線工事にも

氏名、生年月日、出身地や賃金などのほか、備考欄には五人が「逃亡」、三人が「死亡」、ふたりが「行方不明」、ひとり「送還」などと記載されている。吉田さんは東戦時代に同

の家族約三十人が生き埋めされたことができたが、いり返せたが、日本人としてのとがめ強い強い。名簿管理の不備など国の責任を今後さらに追及していきたい。

吉田さんが保管しているのは岩美鉦山町荒金の同鉦山で強制労働させられていた人びとの雇用名簿で、一九七二年頃、同鉦山会社から六十四人を

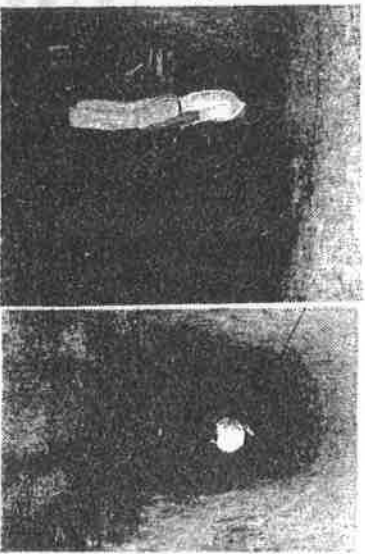
中、朝鮮半島から強制連行されてきた人々が働かされていた事実をつかみ調査。一九四三年の鳥取大震災では同鉦山で働いていた

田国に送り返す運動に取り組み、ことし三月には、吉田さんが同会のメンバーが収集した中で身元が確認された一体の遺骨を持って帰国を訪問。同田国に「望度も訴えてきた。一体を返す」と訴えている。

田国に送り返す運動に取り組み、ことし三月には、吉田さんが同会のメンバーが収集した中で身元が確認された一体の遺骨を持って帰国を訪問。同田国に「望度も訴えてきた。一体を返す」と訴えている。



北海道 北炭など
 北炭の北炭掘採業に 関係する立役者には
 四人以上の名前を告げ 約五十人の朝鮮人を使
 用して、手帳、日返送
 地、手帳、日返送
 地、手帳、日返送



いまはカマクダが放置されたリ、生活道路として使わ
 れている地下工場跡のトンネル (スズ利工出跡)

北炭の北炭掘採業に 関係する立役者には
 四人以上の名前を告げ 約五十人の朝鮮人を使
 用して、手帳、日返送
 地、手帳、日返送

沖種 本部町史に

沖種 本部町史に
 沖種 本部町史に

大阪第二飛行場

大阪第二飛行場
 大阪第二飛行場

石碑もなく



丸山タムの崩し、所謂コンクリートで築固まつける工
 事は非常に危険だったと思われるのだが...

石碑もなく
 石碑もなく

石碑もなく
 石碑もなく

石碑もなく
 石碑もなく

石碑もなく
 石碑もなく

石碑もなく
 石碑もなく

松代大本営 強制労働 韓国から初の生き証人

国内で初の証言者

【ソウル支社】第二次大戦末期、日本の軍部が韓国労働者約七、八千人を動員して長野市南方で建設を進めた地下壕「松代大本営」工事の生き証人が韓国国内で初めて現れ、当時の過酷な強制労働の実態を証言した。これ

栄養失調...爆死 毎日10人命失う

1年働かされた 金錫智さん(68)

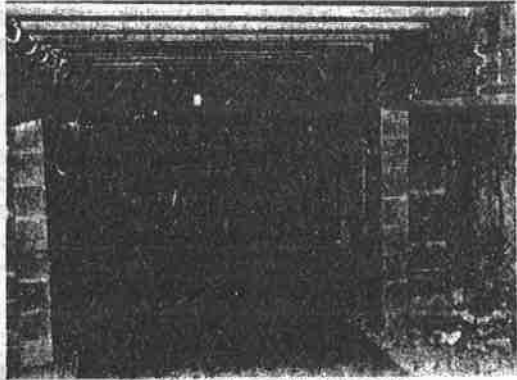


金錫智さん

上で働ったところによれば、金さんは一九四四年十一月、機械担当者として大本営地下壕に送り込まれた。他の日本人の証言は日本側の研究で明らかとなっている。金さんの証言は日本側の研究で明らかとなっている。金さんの証言は日本側の研究で明らかとなっている。金さんの証言は日本側の研究で明らかとなっている。

同胞徴用7000人 死者少なくとも千人に

金さんは「当時、私が所属していた韓国西松組の工事区域には約三千五百名の韓国人労働者が募集・徴用などで仕事をしており、四五年八月十五と明らかにした。金さんの証言は一致する内容である。金さんが働ったところによれば、日本は日本の歴史教育関係者、郷土史家らが研究報告で指摘してきた韓国人労働者の動員故に毎日死者が出て、多い時は一、二千人にもなった。栄養失調や病死者も多く、死者は約七、八千人に達した。解放間もない四五年八月二十



1000人とみられる同胞被徴用者の生命をのみこんだ松代地下大本営

30日に慰霊祭

地元日本人・同胞

アニメ映画完成

朴善熙韓国外国語大教授は在日同胞、日本人市民約五百人の学生とともに来日、現地で在日同胞の崔太小さんとともに三十日、慰霊祭を開く準備を進めている。これを機会に慰霊祭を籌るための運動を始める方針。当日は、強制連行韓国人をテーマとしたアニメ映画「キムの十字架」の上映と、地元日本人・同胞の追悼行事が行われる。この集いにも参加する。イベントをきっかけとして地下壕を「平和のシンボル」として残すことになった。

地図を見ながら住田さん(左)の説明を聞く鄭さん=24日午後2時半ごろ、小松市遊具寺町で

事実調べ後世に伝えて

石川で兵庫朝鮮関係研究会



大正朝鮮学校に強制された朝鮮労働者が、全国あちこちに散らされた碑と石碑で、移民朝臣たちを作ったが、こうした強制を裏づける兵庫朝鮮関係研究会の鄭海承(キム・ハニョク)さん(右)と、石川郡鶴巻町の三所にある碑と石碑を訪れた。当時の朝鮮人労働者の生活の様子をのびやかな同工務所調査を見て回らうと結んだ。

強制連行の跡 トニネル工場など調査

三ヶ所のうち鶴巻町境にある工務所は、いまも謎のトンネルの遺跡と、はらの入口が現れている。鄭さんは調査記録を書き添えて中に入ると、ただその碑には水がたまっていて、ぬるぬるがでず、暖かくなっている一帯であった。このおなじ工務所とは別に強制連行の記録がある小松市黒川町の鶴巻町多足を調べた。鄭さんは「兵川河川の歴史の中で、鄭さんがこんな調査集められたか、たまたま、調査集められたのではないか。調査集められたのではないか。」と語る。

190.6.25

労働者募集の日記 香川で保存

戦時中、香川県香川郡直島町（瀬戸内海の島）の三菱鉱業（現・三菱金属）直島精錬所では、朝鮮へ派遣された同鉱業の元社員の日誌三冊

が、関係者宅に保存されていたことがこのほどわかった。日記には、逃れてきた朝鮮人の名前はないが、募集の模様を詳しく記録しており、当時の企業などがどのようにして朝鮮から労働者を

集めていたかを知り手掛かりとなつた。

「朝鮮人労働者募集」昭和十八年度「渡日誌」の三冊。同精錬所労働課の幹部（故人）が、昭和十五年三月から同十九年三月まで、計十一回朝鮮に渡り、六百二十四人の朝鮮人を連れてきた時の状況を、日朝の社用便箋（ひんせん）にペンで書いている。

「昭和十五年三月、宜野郡で」宮林十二名志願十一名採用、柳谷士六名志願十二名採用計二十三名三テ（これまでの分と合わせて）五十八名、「十八年九月、蔚山郡で」百二十三名応募者ヲ庭ニ集合セシメ、（途中の逃亡など）精勵

（直島へ到着した）労働者九十五名ナリ——など、どこから何人連れて来たかを記録。

さらに、「昭和十五年三月十四日」警察署長、部長、郡守、主事ラ六名ヲ招待シ、芳屋ノス、シャルサービスニテ大イニ胸襟ヲ開ク。コレニテ第一次「工作部」などと、現地の警察署長らと接して募集の協力要請をしていた様子も描かれている。朝鮮人を日本に連れて来る前に、現地で撮影したと思われる記念写真も残されていた。

あるのを見つけ、内容をノートに書き写していた。原本は現在、この関係者宅に保存されている。

空襲犠牲者の調査をしていた高松市立高松第一高校の浄土草也教諭（故人）が昭和四十九年、香川県内の元社員の間接者宅に

朝鮮人の強制連行は戦時の労働力不足を補うため、一九三九年の内務・厚生次官通牒で始まり、第二次大戦中、鉱山、炭鉱などの重労働現場に送り込んだ。当初は「募集」形式だったが、その後、「官あつせん方式」、さらには国民徴用令を適用した「徴用」方式が取られた。

無名労働者日記

第二次大戦中の朝鮮人強制連行

米・公文書館に極秘文書

逃亡防止の指示など

第二次大戦中、日本政府が朝鮮人を各府県ごとに徴用して各地の軍需工場で働かせ、逃亡を防ぐため自治体などに会議を開くよう指示したり、朝鮮人名簿管理の徹底を求めていることなどを示す当時の極秘文書が、米国のワシントンの国立公文書館で見つかり、韓国で資料集として発刊されているのを、神戸市内の民間の朝鮮資料館、青丘文庫（韓哲暉館長）が入手した。敗戦直後、日本政府が焼却する前に、日本を占領した連合軍總司令部（GHQ）が持ち帰ったもので、専門家は「朝鮮人の強制連行政策の骨格を示す貴重な資料。米国の公文書館には強制連行関係の資料が、まだたくさん眠っている」と思ふこと、政府の手で消し切れなかった資料発掘の期待を語っている。

韓国で発刊される

資料を発刊したのは、ソウル市内にある出版社「韓国出版文化院」（李世中代表）。二年前から「極秘・日本の侵略史料叢書」シリーズを出し、今年三月に出版した三十二巻目に強制連行関係の資料を集めている。この資料は昭和十六年から十七年にかけて、内務省や厚生省などが警視總監、警視庁特高部長、各府県、外務省、知事らに



貴重な資料集

朴慶植・アジア問題研究所代表の話。朝鮮人の強制連行に関する資料は、敗戦直後に大半が政府の手で焼却されており、全貌（ぜんぼう）がわかりにく

い。体系的に整理はされていないが、手書きの生々しい一次資料を多数集め、他に類がない貴重な資料集だ。米国の公文書館にはまだまだ、強制連行の実態を示す資料が保存されているはずだ。

文書は、厚生省職業局から内務省警保局に出された「半島人各府県別割り当て人員表」。北海道から沖縄まで四十七都道府県ごとに、徴用割り当て人数を示し、その合計は五千二百三人に上っている。横須賀、呉、佐世保、舞鶴などの十一カ所の海軍軍需工場に配属する人数で、大阪が九百十五人、東京六百三十人、兵庫四百五十五人、福岡四百人、京都三百三人、神奈川二百六十五人、愛知二百人、岐阜百人、静岡、和歌山、鳥根、岡山、長崎、熊本、宮崎各百人などとなっている。

文書には「内地在住半島人徴用」とあり、日本に来ていた朝鮮人を徴用した、と見られる。昭和十七年、福岡県特高課作成の資料には、当時同県内に十四万二千九百三十四人の朝鮮人がおり、飯山や主木建築現場などで働いていたことが、職種別に記載されている。このうち飯山、直方などの炭鉱で働かされ

旧内務省などの極秘資料多数を収めた「日本の韓国侵略史料叢書第三十二巻」

朝日 190.6.26

証言 朝鮮人強制連行

骨削られる思い いまだ報われず

韓国の盧泰愚大統領が「かつては、日本政府は戦前の朝鮮人強制連行者を謝罪の提出を約束し、文部省も日韓の近代史教育重視の姿勢を打ち出すなど改め、半世紀前の「昭和」がローマンスプである。日本の弘山ダム建設などの工事現場に強制連行された朝鮮人の数は、百万人を過ぎてもいわれるが、その強制労働の実態はどうか、体験者の証言を聞くとともに難航するを補強し問題について民間記者に意見を求めた。

「船がやうやくしてゐる。一人がトイに立つ。一番書いてあった。百姓のみんないって行った。仕事を終えろと強要した。下関港に着いた金さんは最

腰縄つけられ船に

栄養失調で 長時間労働 幻の大本営工事も

差飲みながらいついていける。果ての地、千島の飛行場建設と日本人監督が現れて。現場へ。「海の深さか食わさんと半世紀前の話まわらして。今考えればまだ、労働を繰り返すのは、北九州市に、栄養失調で力の無さを住む金鐘甲さんだ。

一九四二年(三)朝鮮半島の慶尚南道金海郡から日本へ強制連行された金さんは現在、福中にも半隻不慮で入院中の身だ。

「釜山港には朝鮮人が大勢集まっていた。機織で四五人ずつへられて船に乗せら



男

たいたいたいて、十本締りたり連だりの繰り返しの腰縄道金海郡から日本へ強制連行された金さんは現在、福中にも半隻不慮で入院中の身だ。

「釜山港には朝鮮人が大勢集まっていた。機織で四五人ずつへられて船に乗せら

簿捜し 扱隠滅

日本政府は六月初め、ようやく重い腰を上げ都道府県庁の職業安定課などのルートを通じ朝鮮人強制連行者の簿に乗り出した。しかし、簿と表裏のあるもの判、三百十四頁の冊子で、四五年八月十六日の項に二ん記述が出てい、芳しい成果はほとんど上がっていないが現状だ。

名簿そのものは政府機関、関係する統計資料調査その他の重なることにより、簿に記述されてい、知るまでもありません。

神 190.6.27.



モッコかつぎの朝鮮人労働者—北海道・釧路の砂白金発掘現場（辛基編著「映像が語る『日韓併合』史」—労働経済社—から）

宇崎の尚書で画の才輝職人

日本人の各職科會

宇崎の尚書

た、最高裁まで争ったが、昨
年門前払いの判決を受けた。
金さんがついにくまに言
う、

「日本が無理やり連れて来
たのだから戦争が終わった
掃りの切符の一枚も貰わな
れると怒っていたのに……」

四四年、本土決戦に備えて
旧軍が天皇、皇后的御座所や
戦争の指導機關「大本營」な
どを長野市松代町の地下に遷
監させるため延長十三キロに
及ぶ大地下壕（一〇）を掘っ
た。「幻の大本營」工事、約七
千人もの朝鮮人労働者が強制
労働をさせられ、存続事故が

きよこの

視角

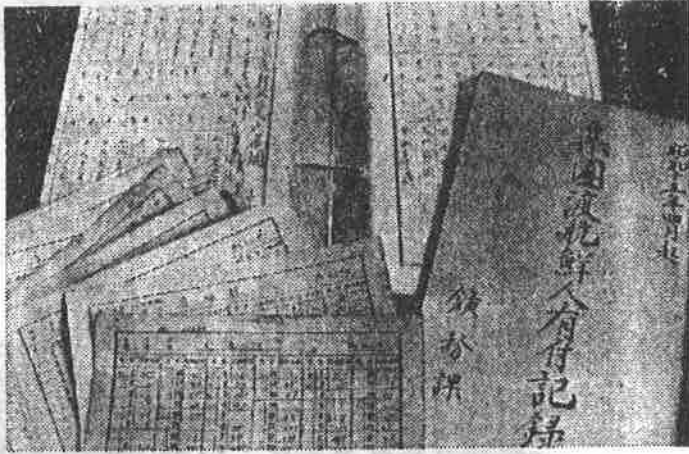
難航する名証書類焼却し証



「政府は企業に名簿の提出を指示するべきです」と語る朴慶植さん

労働させた炭鉱や土産など命（略）一物をも残さず焼却した。……遺棄の心遣を
の企業体の調査を急ぐべき国民学校敷地に焼く三日間
だ。二十五年前に「朝鮮人」を要した」
強制連行の記録」を著し、こ
をさせた大手建設会社が
シア問題研究所代表の朴慶植
さん（六〇）東京都在住は強
命令に従い、敗戦の翌日に証
書類を焼却したことを告白し
ているのである。
一九一〇年の日韓併合に始
まる日本の植民地支配で、田
畑を奪われ、六歳の時に家族
の下には小さな会社や株式会社
と立ちに日本へ移り住まざる
がたぐさんあり、名簿類が今
でも残っていない犯罪者は本
手に、極秘の印が押された
命（略）一物をも残さず焼却した。……遺棄の心遣を
の企業体の調査を急ぐべき国民学校敷地に焼く三日間
だ。二十五年前に「朝鮮人」を要した」
強制連行の記録」を著し、こ
をさせた大手建設会社が
シア問題研究所代表の朴慶植
さん（六〇）東京都在住は強
命令に従い、敗戦の翌日に証
書類を焼却したことを告白し
ているのである。
一九一〇年の日韓併合に始
まる日本の植民地支配で、田
畑を奪われ、六歳の時に家族
の下には小さな会社や株式会社
と立ちに日本へ移り住まざる
がたぐさんあり、名簿類が今
でも残っていない犯罪者は本
手に、極秘の印が押された

「政府は企業に名簿の提出を指示するべきです」と語る朴慶植さん
難航する名簿問題について
朴慶植さんは「調査を急ぐべき
政府に名簿作りの調査を指導
にやってくれた人たち、行政
がお願いして仕事の成果を提
供してもう、さして（企業）
体のチームをいひ取り組
むのならば、その作業は進
まないと（一〇）理解でき
ない。」



長生炭鉱で働いていた朝鮮人の名前が記入されている書類。左下は出炭量を記録した個人カード

宇部の炭鉱で働いた朝鮮人

453人の名簿保管

千葉の研究者

太平洋戦争が始まる前年の昭和十五年、朝鮮から山口県宇部の長生炭鉱に送り込まれて働いていた朝鮮人四百五十三人の名簿が残されていることがわかり、一在日朝鮮人運動史研究会(代表、朴慶植アジア問題研究所代表)メンバーの千葉県松岡市上本郷、塾講師長沢秀さん(左)が入手した。資金、採掘した石炭の量、係員への注意事項などが記録されており、当時の労働実態を知る貴重な資料として注目される。

「在日朝鮮人労働者名簿」と題した書類で、五十二年。昭和十五年四月から同年十二月までの間、朝鮮から六回にわたって長生炭鉱にやってきた朝鮮人労働者計四百五十三人の氏名と鉱夫番号を並べている。

このうち、約六十人については、年齢、両親・妻子の有無、家族数、前職、日本語が話せるかどうかが一覧表にして記入されていた。

書類には、資金に関する記述もあり、入所後四日間の教育期間中の賃金は「日役賃金四圓也」で、「貳兩壹分以上出炭シタル者」には「金五拾錢也」の賞与を支給するつもりもあった。

毎日の出炭量を記録した個人カード(縦約十二・五センチ、横約十七センチ)も一部保管されており、「七月一日 正味出炭四・六」などと、掘った石炭の量とみられる数字が書かれている。「逃走」の文字が書き込まれているカードもあり、炭鉱内の労働条件がかなりきつかったことをうかがわせている。

朴慶植代表の話 「集団渡航」という言葉があることから、一九三九年(昭和十四年)の國民徴用令に基づく労働動員計画で強制送られた人たちの名簿であることは間違いない。名簿作成が昭和十五年というところは、炭鉱会社の人間が「募集」という形で進んでいたことではないか。炭鉱関係の資料は横断されていることが多いので、貴重な資料だ。



各るを誠撰
五ノ味熱飲書

朝鮮人労働者名簿の保管と研究に関する詳細な記述が並んでいる。



「朝鮮國獨立」などの文字が残る地下
軍需工場跡—兵庫県西宮市甲陽園で

西宮市が名簿調査

朝鮮人
強制連行
新明和に有無照会へ

太平洋戦争中に強制連行された朝鮮人の掘った旧海軍地下車需工場跡を抱える兵庫県西宮市は、強制連行された人の名簿を独自に調査することを決め、近く新明和工業（本社・西宮市）に文書で名簿の有無を照会する。労働省は、市町村レベルの行政が独自に調査する例は初めて。具体的な

結果が出れば、西宮市も連携して調査を進めたい」と注目している。西宮市の地下車需工場は、米軍の資料などによると、当時の川西航空機（現在の新明和工業）が旧海軍の命を受け、戦闘機製造工場として昭和二十年初めから西宮市甲陽園の六甲山系に造り始めた。完成

前に終戦となったが、七カ所で計十七本のトンネル跡（総延長七八〇メートル）が確認されている。トンネルの壁面の一部には終戦時、朝鮮人労働者が書いたとみられる「朝鮮國獨立」などの文字が残っている。強制連行の歴史を調べている在日朝鮮人グループ「兵庫朝鮮

調査する」と話している。新明和工業総務課は「強制連行者名簿については、六十二年に一度社内ですべて見当たらなかった。西宮市から正式な要請があればもう一度

毎日 '90.6.29



一 嶺南朝鮮大統領に日本政府が朝鮮人強制連行者名簿の調査を約束して一月、朝日新聞社の全国調査によると、政府や各自自治体の対応は鈍いが、民間の団体やグループの間では、新たに名簿の掘り起こし運動が起きていることが分かった。これまで独自の調

査を続けてきた市民グループも「調査の大きな障害になっていた軍関係事業を請け負った業者の門戸を開かせる絶好の機会」と勢いづいている。だが、四十五年の歳月は重くのしかかり、道のりは極めて険しいことも、改めて明らかになった。

朝鮮人強制連行者の名簿

草の根、調査は活発

◆新たな動き

富山市内の教師や主婦で作る「LIL会議」(はのよしこ代

表)は、天皇制や原爆問題など幅広い市民運動に取り組んでいる。今度、県内の水力発電所や軍需工場建設のために働かされた朝鮮人労働者の身元を掘り出す運動に乗り出した。

同県東砺波郡庄川町には戦時中、地下工場が建設される予定だったが、現在も工事跡が残っている。同会議は「朝鮮人労働者が多数働かされ

してもらったところ、アメリカ在住の男性会から手紙が届いた。

「四十五年ぶりに日本語で手紙を書きます」と、たどたどしい文字が十三枚の便せん裏面にびっしりつづられていた。韓国

で「白い石炭令状」を受け取り、二千人の仲間と日本に渡った。穴掘りが主な仕事で、日本人からは白眼視され、アヒル

扱いだった」とあった。生徒たちは今後文通を続けていく。長野市松代町の天本宮地下壕機に、強制連行者の資料を探し回

◆はすみ

本州最大規模の炭鉱地帯だった、福島県いわき市の常磐炭田

には、二万人を超える朝鮮人が働いていたといわれる。郷土史家の大塚二さん(きん)の父親は戦時中、同炭田の赤井日曹炭鉱に勤務。悲惨な境遇にある朝鮮人労働者を日曜ごとに自宅に招き、食事を共にした。

それを見て育った大塚さんは、昭和三十五年ごろ、福島県史編さんの調査員になったのを機に、強制連行者の資料を探し回

主婦・高校生も参加

45年の歳月改めて重く

ていた」として、今年夏から、現地調査を始めるとともに、県内の企業に名簿が残っていないかどうか、調査を依頼する。

(こう)の実態を調べている東京周辺の市民グループ「松代大

「だが、この問題を、誠意をもって整理しておく必要がある。だが、民間でやるには限界がある」と大塚さん。

岡山県野市の県立玉野光南高校社会問題研究会はこの春、三井造船玉野造船所に「協和隊」と名づけられた約千五百人の朝鮮人が働いていたことを知

らで作る「松代大本営地下壕調査研究会」のメンバーを招いた。最近、百二十一人の名簿を「朝鮮人炭鉱労働者単身在寮者名簿」としてまとめた。

「静岡地理教育研究会」の大塚久雄(とく)は昭和五十年、山梨県企業側から自発的に提出されたもの、ほとんどない。

主な朝鮮人労働者関係の名簿

地域	名簿名	掲載人数
北海道	万字炭鉱鑑夫名簿	約1000人
	住友金剛陽之舞鑑山	2544人
	半島人労働者名簿	860人
	半島人労働者事故名簿	860人
福島	朝鮮人炭鉱労働者単身在寮者名簿(郷土史家作成)	112人
山梨	富士川第一発電所水路工事名簿	409人
愛知	豊川海軍工廠(しょう)火工部工員名簿	145人
兵庫	寄留居留者(つづり)	約1000人
	厚生年金被保険者資格喪失届	179人
広島	韓国人原爆被害三菱徴用者同志会	158人
長崎	三菱重工長崎造船所朝鮮徴用工名簿	90人
	霧島隊便覧	469人
福岡	朝鮮人登録簿(1947年作成)	1036人
	殉職遺業人名簿	約2400人

発電所水路工事」の労働者名簿を発見した。朝鮮人とみられる名前が四百九人あった。

90. 6.30

遺骨708柱、韓国に返還

朝鮮出身の 110冊の名簿も確認

厚生省

厚生省は五日までに、第二旧軍が作成した朝鮮出身の軍次大戦中に日本軍に召集、採入、軍属の多編百十冊が、台湾に死した朝鮮出身の軍属出身者分五十冊とともに採入、軍属のうち、現在の韓国に留まっていることを確認しを母国とする遺骨七百八柱を一括して同国に返還すること、韓国側と同意した。朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)を母国とする遺骨四百三十二柱については、日本赤十字社などを通じて、返還する方針。併せて同省は五日、

同省によると、戦時中に軍に召集、採用された朝鮮半島出身者は約二十四万二千人で、このうち二万二千人が戦死したとされている。戦後、身元がはっきりした遺骨は、陸軍については第一復員省

が、海軍については第二復員省が韓国に返還してきたが、昭和二十五年の朝鮮戦争で中断。四十六年、残った二千三百二十六柱が、東京都目黒区中目黒の祐天寺(本多正雄住職)に倉庫()された。

これは先立って四十四年、日韓定期領金会議で、遺骨返還の再開について政府レベルで合意、韓国側遺族の請求が

あれば、その都度、返還して来たが、五十九年を最後に請求が途絶え、千四百十柱が残っていた。

一方、名簿は旧軍が昭和二十年一月現在で日本軍在籍の軍人、軍属のうち外地にいた金四百三十三人について、部隊ごとに記録した「留守名簿」九千冊のうちから、朝鮮と台湾出身者の分を改めて抜き出したそれぞれ百十冊と五

十冊。いずれも数万人分に相当するとみられるが、正確な人数ははっきりしていない。名前、生年月日、階級、所属部隊、本籍、朝鮮の家族名が内地出身者と同様に記されている。

厚生省は四十六年、韓国政府の要請に応え「旧日本軍在籍朝鮮出身者死亡者連名簿」を作成して送付したが、この作成に当たっても、今回の名簿をもとにしたという。

今年四月、韓国の民間団体「韓国太平洋戦争犠牲者遺族会」が同省に「朝鮮から徴用された者の名簿を出して欲しい」と求めている。

戦死した朝鮮人の遺骨

1140柱を韓国に送還へ

本太平洋戦争中に日本軍に軍人・軍属として召集、採用されて戦死し、東京都目黒区の祐天寺に納められたまま引き取り手のない朝鮮人の遺骨千四百十柱に、朝鮮人軍人・軍属の遺骨は、

一九六九年の日韓定期領金会議で、遺族から引き取りの申し出があれば韓国政府を経由して返納する取り決めが交わされた。その後、八四年までに計約千二



朝鮮人の軍人・軍属名簿

厚生省の倉庫に保管

約110冊、5万人分

これまで存在を否定

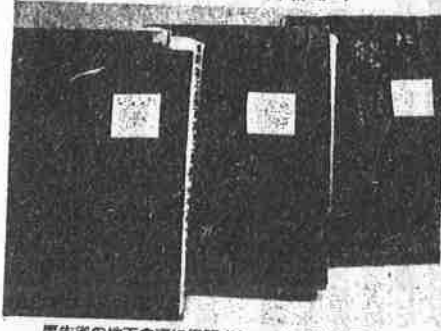
朝鮮人軍属の名簿が安堵地と知られてきたが、軍人・軍属として日本に到着・滞在した朝鮮人の名簿の冊数が地下に隠されていたことが四日、明らかになった。入籍簿目録の名簿が、戦後まで約110冊に達していたことが、各簿が保管された倉庫で、韓国・慶尚道で新たな調査が行われることになった。

各簿は、韓国を去る日本軍十周年記念として、五人一人にわたって、その冊数の二以上の冊数が、在日朝鮮人の名簿に保管されていた。朝鮮人の名簿が、戦後四十年以上たつた現在でも、韓国に保管されていたことが、四日、明らかになった。

朝鮮人軍属の名簿が、戦後四十年以上たつた現在でも、韓国に保管されていたことが、四日、明らかになった。朝鮮人軍属の名簿が、戦後四十年以上たつた現在でも、韓国に保管されていたことが、四日、明らかになった。

朝鮮十一年二月十日、朝鮮人として入籍した朝鮮人の名簿が、戦後四十年以上たつた現在でも、韓国に保管されていたことが、四日、明らかになった。

朝鮮人軍属の名簿が、戦後四十年以上たつた現在でも、韓国に保管されていたことが、四日、明らかになった。朝鮮人軍属の名簿が、戦後四十年以上たつた現在でも、韓国に保管されていたことが、四日、明らかになった。



厚生省の地下倉庫に保管されていた朝鮮人軍人・軍属の名簿

他にも残る可能性
アジア調査研究所の朴慶福(パク・ギョングン)代表は、朝鮮人・軍属の名簿が、戦後四十年以上たつた現在でも、韓国に保管されていたことが、四日、明らかになった。

朝日 '90.7.5

朝鮮人の軍人・軍属の名簿が、戦後四十年以上たつた現在でも、韓国に保管されていたことが、四日、明らかになった。

特高の朝鮮人名簿現存

国立公文書館・米返還の極秘資料

要視察人の1400人分

戦時中の朝鮮人強制連行者の名簿調査問題で、昭和二十年(一)各地の特別高等警察が「要視察人」などとしてマークした朝鮮人約千四百人の名前を記載した極秘扱いの文書類が東京都千代田区の国立公文書館(小玉正任館長)に保管されていることが四日、明らかになった。

工場などで強制労働をさせられていた朝鮮人名簿のほか、待遇改善の要求や朝鮮独立を唱える労働者たちの動向が実名入りでつづられており、特高関係の名簿類が明らかになったのは初めて。

政府の名簿調査は労働者を中心に進められているが、日朝の近代史研究者は「各都道府県の警察が保管している文書にも朝鮮人の名前が出てくるはずで、政府はこれらについても調査の指示を出すべきだと強調している。

今回発見されたのは、地方の特高関係の文書十一点。終戦後、連合国軍総司令部(GHQ)に接収されたため焼却処分を免れ、一時、ワシントンの米国議会図書館に所蔵されていたが、日米協議を経て昭和四十九年に日本へ返還された。

氏名、本籍などが書かれている。また「昭和二十年 内鮮関係書類(二つり)の警察署長報告」という文書は、同年八月から十月にかけて新潟県内の各警察署長が県知事にあてた「休戦に伴う半島人の動向視察取締(関スル件)」「在住朝鮮人の動向並二言動(関スル件)」などの報告書。日本の敗戦などについて朝鮮人の発言を本籍、氏名入りで記載してあるほか、直江津の化学工場で強制労働をさせられた百一人の朝鮮人名簿も含まれており、全部で約百六十人の名前があった。

さらに、新潟県警察部長が内務省警保局にあてた「内鮮関係書類(一)主務官報告」には、新潟市内の鉄工所で朝鮮独立運動や待遇改善要求を行使、治安維持法違反で逮捕された十九歳の少年の取り調べ内容も入っていた。

このほか、全羅南道知事が作成した文書なども合わせると全体で約千四百人の朝鮮人名が出てくる。
国立公文書館の小林一夫公文書課長は「フライパシーとの格みもあり、特高関係の名簿は一般公開できない。しかし、労働者から要請があればいつでも協力する用意はある」と話している。

神 90.7.5

朝鮮人軍人・軍属の名簿

対韓引き渡しに前向き

厚生省 公開には消極姿勢

日本軍に加わつて第二次大戦を戦つた朝鮮人の軍人・軍属の名簿が厚生省に眠っていたことに関して、厚生省は五日、韓国政府から要請があれば名簿を引き渡すことも前向きに検討するとの方針を明らかにした。また同省の倉庫には、台湾籍の軍人・軍属についての同様の名簿もいっしょに保管されていることも判明した。

同日朝、記者会見した村瀬松

雄・同省長務局長一課長は、「この名簿は、全軍の朝鮮出身者をすべて含んでいるわけではないので、不完全な資料としてこれまで、あることは認めてこなかった」と説明。

その上で、「個人の名替に関する記述もあり、ライパシーの観点から公表はできない」と述べた。

しかし、韓国政府に対しては、一九七一年に戦没者名簿を引き

渡した前例もあることから「政府機関からの要請があれば、前向きに検討することになる」と述べた。

公開を求め 日韓で動き

太平洋戦争で旧日本軍に召集、採用された朝鮮人の軍人、軍属名簿が厚生省の地下倉庫に保管されていることが明らかに

公的に開かれ、補償を求める運動を進めるうえで重要な資料となる」としている。

【ソウル五日】波佐場特派員 太平洋戦争に動員された朝鮮人の名簿の一部が厚生省の地下倉庫に眠っていたことがわかったことに関して、「韓国太平洋戦争犠牲者遺族会」は五日、「名簿を即刻公開せよ」となるとする声明を出した。

今回、厚生省に名簿の一部が保存されていたことがわかったことについて、同会の事務局長は「隠そうとしてきたもので、われわれを愚弄(ごまか)している」と反発。改めて、名簿の公開と韓国人犠牲者に対する補償を要求する声明を出した。

声明は、「韓国政府はすぐに日本政府に公開などを要求すべきで、そうでない場合はこれを国際問題化させる」などとしている。

一方、韓国外務省はこの問題

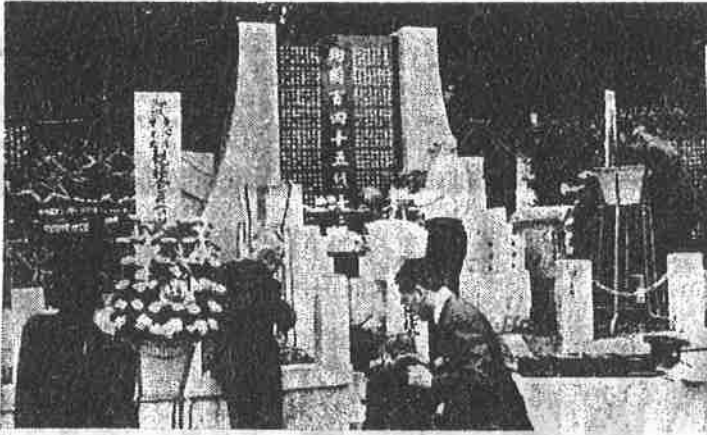
＊ について、「盧泰愚大統領領訪を提示してほしいと公式に日韓の外相会談で、名簿を本政府に伝えてある」(文壇柱)

＊ 東北アジア一課長)としている。

朝日 90.7.5

戦犯の汚名に補償なく

老いる台湾人元日本軍属



日C級戦犯刑罰受刑者の碑の前で営まれた慰霊祭＝5月20日、愛知県稲沢市で

第二次大戦中日本軍の軍属として南征北討、捕虜虐殺の行を犯した百人もの台湾人部隊があった。敗戦後は捕虜虐待などの罪で、うち九十五人が日C級戦犯として刑に服し、七人が刑死、四人が終身刑を食った人も本土に送還された時には、日本国籍がなくなっていた。軍人恩給や年金、甲斐金など一切の補償がなくなり、まま戦後を生き延びていく「日本人として戦犯に問われたのだから、せめて刑期間中の補償だけでも」と訴えている。

(藤本 勲記者)

台湾人軍属たちは一九四二年、ボルネオ島北部のシンダワンなど三万所の捕虜収容所に配られた。日本人将兵や軍属と

せめて刑期中の俸給を

もに約五千人のオーストラリア人捕虜の監視にあたった。食糧事情が悪化するなかで捕虜たちを労働に駆り立て、死者が続出した。

敗戦により立場が逆転し、現存捕虜立十周年を記念し、会の関係者六十八人が集まった。うち四人が台湾人で、一人は台湾から駆けつけた。

慰霊は、稲沢ラッパに続いて「海行はの歌、蘇杭と通行一瞬、四十五年の歲月をめぐり返す。元将校から一兵卒まで、日本人にとって「戦犯」は、何を言っても過去のものとなり、住のAさん公は、その胸の内を語った。

法の谷間に45年間放置

オーストラリア軍に捕らえられ、翌年一月、回軍法廷で十年の刑が確定した。マヌス島に収監されたが、捕らわれてから、五三年八月に捕虜へ上陸した。前年四月のセントラシスコ平和条約締結で、Aさんは日本国籍を失っていた。

日本政府から支給されたのは「復讐手当」の二万五千円だけだった。

静岡県住のBさん公。爆弾処理作業で事故死した同僚を、何人目のあたりにした。「補償は日本と同じ扱いをし、金を出さなくても生活

「捕虜」にかかわったとき、直接捕虜と接してきた台湾人軍属の多くが戦犯に問われ、マヌス島の収容所で服役した。せめて刑期中の未払い俸給

本軍属たちは「今日の捕虜」に「戦犯に協力しない者は非国民、名籍ある戦死を遂げてほしい」と訴えている。Aさんは「せめて刑期中の未払い俸給

台湾人の元日本兵、軍属の場合、戦犯者に限って八八年から一律二百萬円の「特別弔慰金」が支給されるようになり、戦犯者でも刑罰受刑者には適用されている。この背景には、台湾人元日本兵たちが七七年以来、東京地裁に日本人と同じ補償を求めて提訴した運動があった。しかし、台湾人戦犯は法の谷間に放置され、刑期間中の軍属加算など一切の補償はない。

慰霊祭後の総会で、新設された「八八年に提出した台湾人元日本兵の特別補償法制定を求める一万人署名を基幹から、台湾人戦犯の問題を少しでも前進させた」と話していた。

「平均対する罪」「人道に對する罪」も訴追し、A級戦犯と呼ばれる。日本軍で日C級戦犯に問われた者、五千七百人(うち台湾人兵士、軍属百七十三人)、死刑九百八十四人(同二百六十八人)、A級戦犯二十五人、死刑七人。

四二年二月、シンガポール陥落の余給がない。妻の国民年金は月三万円、慰霊祭に来るには二月分、九月分、日本人の場合も、戦犯者の刑期間中の経費人は身づくろいも認められなかった。七三年十月の恩給改正で「戦犯者として海外で拘禁された者、一月につき一月を加算」となり、各種恩給や年金に反映されている。「最短期給付」として旧軍人は、兵・下士官の場合十二年と定められているが、その年限に満たない人も最低保障として四十七万七千円が支給されている。

台湾人の元日本兵、軍属の場合、戦犯者に限って八八年から一律二百萬円の「特別弔慰金」が支給されるようになり、戦犯者でも刑罰受刑者には適用されている。この背景には、台湾人元日本兵たちが七七年以来、東京地裁に日本人と同じ補償を求めて提訴した運動があった。しかし、台湾人戦犯は法の谷間に放置され、刑期間中の軍属加算など一切の補償はない。

慰霊祭後の総会で、新設された「八八年に提出した台湾人元日本兵の特別補償法制定を求める一万人署名を基幹から、台湾人戦犯の問題を少しでも前進させた」と話していた。



中国人強制労働の花岡事件

企業責任認め謝罪

鹿島建設 来日中の生存者に



鹿島建設幹部が出迎える中、賠償交渉に向かう「花岡事件」の中国人生存者とその遺族ら—港区赤坂の鹿島建設本社で5日午後2時57分

太平洋戦争末期、日本へ強制連行された中国人たちが過酷な労働と虐待に耐えかねて二斉はう起した秋田県の花岡事件」をめぐり、来日中の中国人生存者・遺族と使用者側だった鹿島建設（当時、鹿島組）との話し合いが五月半後東京・元赤坂の同建設本社で開かれた。鹿島側は、当時の強制労働について企業責任を認め、「深甚な謝罪の意」を表明した。中国側の賠償請求に対しては消極的な姿勢に終始したが、約四万人といわれる中国人強制労働問題で企業が正式に謝罪したのは初めてで、他の関係企業にも影響を及ぼるとみられる。

話し合いは午後三時から二時間余に及び、中国側から今回、中国側から今万円の賠償支払いを求めると公明に示した。中国側は昨年十二月、同社に対し謝罪と二人当たり五百万円の賠償支払いを求めると公明に示した。中国側は昨年十二月、同社に対し謝罪と二人当たり五百万円の賠償支払いを求めると公明に示した。中国側は昨年十二月、同社に対し謝罪と二人当たり五百万円の賠償支払いを求めると公明に示した。

話し合いは終了後、中国側、鹿島側双方が共同発表の形で明らかにした。合意事項は、中国人が花岡鉱山出所時の現地で受難したのは、関係決定（昭和十七年一月）に對し、強制的に強制労働に起因する歴史的事実。鹿島建設はこれを事実として認め、企業としての責任が重く認識し、中国人生存者・遺族に対して深い謝罪の意を表明する。同事件は昭和二十年六月三

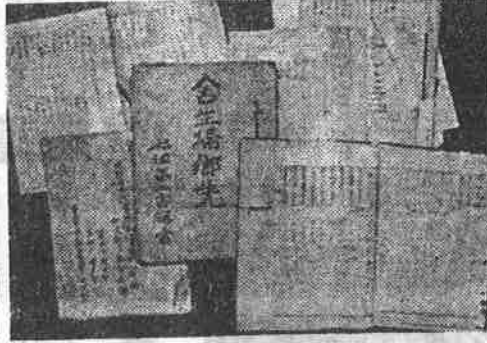
日、秋田県大館市（当時、花岡町）の花岡鉱山で発生した。同鉱山には戦時中、日本軍との戦いで捕虜になった中国人ら八百八十六人が連行された。中国人強制連行は戦時中、約四万人といわれ、全園口三十五万人の重労働で強制労働させられた。この間の死者は完全

次々に死に。これに耐えかねた取さんらが一斉はう起した。この事件も含め、死した中国人は四百十八人上った。この間の死者は完全八百人余りになった。

毎日 '90.7.6

6200人分るみに

強制連行の朝鮮人名簿 旧呉海軍工廠など



朝鮮人強制連行者の名簿問題で、広島呉市の旧呉海軍工廠などに強制連行されていた約千四百人と軍人・軍属関係約四千八百人の計六千二百人分の名簿が、朝鮮総連のメソバエつる「朝鮮人強制連行真相調査団」（金基諤団長）によって六日、明らかにされた。

これらの名簿類は、各地の釜山やダムなどで強制労働させられていた二十人の証言と合わせ、今月末、東京の書店から「強制連行された朝鮮人の証言」として出版される。

呉海軍工廠は一九〇三年に設立され、戦艦「大和」をはじめ五十五隻の艦船を建造しており、太平洋戦争末期の四年のピーク時には、十万人の工員が働いていたとされる。

今回明らかになった名簿の表紙には「釜生捕虜生 福浦第二寄宿舍」とあり、終戦直後の四五年九月二日から十三日までに朝鮮半島へ帰った千十四人の名前と住所が書いてあった。

名簿には当時舎長だった山口豊之氏が四六年一月付で「後日のために」と書いたメモが挟まれており、昨年一月十二日と三月十一日の二回に及び、半島の若人を迎えたのであります。早急にまとめたため、各自につき十分確定し、かめる余裕がありませんでしたと記してあった。

旧呉海軍工廠などへの強制連行者と軍人・軍属関係者の名前が載った朝鮮人名簿は東京都千代田区の朝鮮総連

しかし、強制連行された朝鮮人については、地元の呉市史にわずか三行の記述があるだけであった。

このほか、同調査団は島根県美濃郡美都町の釜山に朝鮮・忠清南道から連行された八十人と、同所で強制労働させられていた九十六人の氏名、本籍、生年月日を書いた名簿、福島県・旧常磐炭田で死亡した二百七十一人の強制連行者名簿、さらに韓国・釜山港から南方のラバウルやトラック島などへ送り出された海軍軍人・軍属、強制連行者の名簿三千百五十一人分を明らかにした。

また、福岡地方復興部の陸軍死没者名簿に千三百二十三

朝鮮人労働者の名簿発見

長崎・造船所の496人

けが、入院など貴重な記録

労働の一端をつかがわせる。全員が清津、吉州など現在の朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の出身で、寮に收容されたのは十九年十月、逃亡者もみられる一方、危篤の家族に会うため一時帰国を許された例もいくつもある。戦後、全員がチャーター船で帰国したとされている。

長崎県内の朝鮮人被爆者の実態調査を進めている岡正治さん（モ）は「戦時中、川南工業が強行した突貫作業は受刑者を含め臨時工の強制労働によって支えられていた。このうち朝鮮人徴用工の占める割合は高くないが、当時彼らが行った指切断など作業中の負傷とみられるけがも多く過酷な一級の資料だと話している。

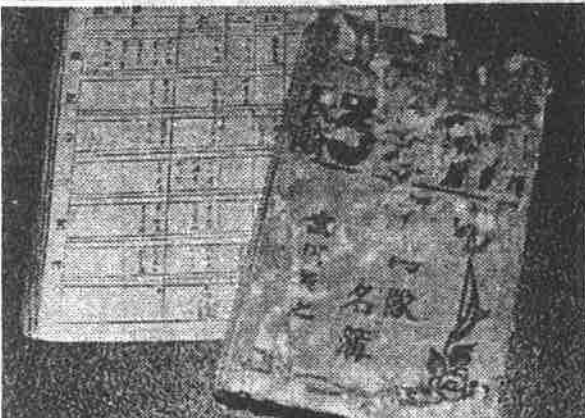
（昭和六十年死去）の妻不美子さん（六九）岡市天婦川町が自宅に保管していた。

大きさは縦十七センチ、横十センチ。表紙には「霧島隊名簿」とあり、二十年五月現在の寮の收容者全員の氏名を菅川さんの自筆で部屋別、出身地別などに分類して記入している。氏名はこれまでの資料で既に判明しているが、名簿には寮の見取り図や負傷、発病、入院などの記録が片明に書き込まれている。入院者数は一年に満たない間に三十五人にも上り、指切断など作業中の負傷とみられるけがも多く過酷な一級の資料だと話している。

戦争中、長崎島の造船所で強制労働させられていた朝鮮人労働者四百九十六人の名簿が、長崎市内の当時の関係者宅に保管されていたことが七日までに分かった。

名簿には、病人や負傷者の覚書など初めて明らかになる内容が含まれており、強制労働の実態を知る上で貴重な資料として注目されそうだ。

保存されていたのは、現在の長崎市末石町にあった旧川南工業の徴用工施設「霧島寮」に収容され、同工業の造船所で用地造成のための土木工事などに従事していた朝鮮人労働者の名簿。終戦まで寮の監督をしていた吉田美之さん



旧川南工業の造船所で強制労働させられていた朝鮮人労働者496人の氏名が書き込まれている「霧島隊名簿」

11日 190.6.12

朝鮮人 連行名簿、鳥取で保存

昭和十五年から十九年にかけて鳥取県鳥取郡真庭町の旧日本鉱業吉田産山で働かされた朝鮮人労働者の名簿を、同町出身の吉田産男・参院議員（五）「社会」らが保存している。鳥取地蔵（昭和十八年）の犠牲者の追跡調査を進めるうち、日本鉱業の同業会社が当時の日本鉱業の健康保険や労働者年金保険台帳を持っていることが分かり、朝鮮人労働者を拾い出してコピーした。

40度の熱も休めず 薬は歯磨き粉

強制連行体験生々しく



強制労働の体験を語る金相八さん＝神戸市灘区、神戸学生青年センター

元神鋼尼崎工場の金さん(播磨町)

朝鮮人強制連行の名簿捜しが難航するなか、強制連行により終戦前、神戸製鋼所尼崎工場で働いていた兵庫県加古郡播磨町北本庄、大工金相八(キム・サンバル)さん(63)の体験談を聞く会が十二日夜、神戸市灘区の神戸学生青年センターで開かれた。在日韓国、朝鮮人問題を研究している「兵庫朝鮮関係研究会」が捜し出し、体験告白を依頼したもので、金さんは強制連行から尼崎の工場での労働、軍事訓練、逃亡に至るまでの経過を生々しく語った。

仲間捜し歴史の証人に

金さんは、慶尚南道(現韓国)昌原郡出身、連行されたのは昭和十八年十一月十六日で、当時、全羅北道の日本旅館で働いていたが、軍服姿の神戸製鋼所社員三、四人にお前は日本人だ、日本のため一生懸命働け」と言われ、船で連れてこられたという。十六歳の時だった。当時、一緒に連行されたのは十四歳から十九歳までの約百人で、尼崎工場ではワイヤロープ用の鉄線を製造していた。金さんは、その時の様子を「足の裏がむけて血が噴き出ても、四〇度の高熱が出ても休ませてくれなかった。薬は会社がくれたけど、歯磨き粉だった」と振り返り「仕事といっても軍事訓練が主体で怖い思いを何度も体験した」と語った。

その後、金さんは二十年六月の空襲の明けきめめて工場から逃し、各地を転々とした後、加古郡播磨町に落ち着いたが「これをきっかけに当時連行された仲間を捜し出し、責任問題と、会社に預けていた貯金の返済を迫りた」と語った。

兵庫朝鮮関係研究会の調べによると、戦前、兵庫県下の各工場に強制連行された朝鮮人は最低三万八千人に上るといわれ、そのうち二十七社、一万百三十四人の実態が現在までに明らかになっている。同研究会の徐根植(ソ・ケンシク)代表は「金さんの話で明らかによきに、当時日本は国策として朝鮮人が連れてこられた。こうした体験者を今後も捜し出し、歴史の証人として記録にとどめていきたい」と話していた。

神戸 '90.7.13

地下工場で朝鮮人強制労働

県下の2、3世が報告書出版へ

西宮のトンネルに落書き

太平洋戦争末期、米軍からの本土攻撃に備え数多くの地下軍用施設が各地で造られたが、兵庫県に住む在日朝鮮人二世、三世で構成する「兵庫朝鮮関係研究会」（徐根植代表）は、地下工場建設と朝鮮人強制労働の実態を明らかにするため、四年がかりで兵庫県を中心に京都、岡山、静岡など全国十九府県で現地調査を実施。この報告書をまとめた。

中には全国に点在する航空機関係の地下トンネル軍需工場九十九カ所（うち確認済みは三十一カ所）の一覧も収録されており、今月末「地下工場と朝鮮人強制労働」のタイトルで明石店（栗西）から出版される。

地下軍用施設の公的資料は敗戦直後に焼失されたため、その実態は不明な点が多く、日朝近代史の専門家も「貴重な著作」と評価している。

軍関係の地下トンネル工場は、昭和十九年二月、豊野市松代町で大本営造成工事が始まったのを皮切りに地下司令部や砲薬庫、軍需工場、防衛壕（二）などが全国に

造られ、その総数は数千にも及ぶという。この時期日本の労働力は極度に不足したため多数の朝鮮人が強制連行され、地下での危険な掘削作業に従事させられ多くの犠牲者を出したと伝えられる。

同研究会は、「米軍戦略情報調査報告書」（二十二年）なる参考書に六十二年から現地の調査を開始したが、調査の波に洗われ姿を消したトンネルも多く、現場の確保に手間取ったり、体験者や目撃者も少なくなっている。

調査報告書はA4判で二百六十四頁、現地調査の記録十冊のうち七冊は兵庫県内の航

空機庫などの地下工場現地ルボで、阪神間の高級住宅地・西宮市甲陽園の傾斜地に掘られたトンネルの中からドロッコのレールや壁面に「朝鮮国独立」などの落書きが見つかった話などが紹介されている。

徐代表は「これはあくまでも中間報告、多くの人にさら



「朝鮮国独立」の文字が残されていた地下トンネル
—西宮市甲陽園（兵庫朝鮮関係研究会提供）

貴重な調査報告

アジア問題研究所代表・朴慶植さんの話。戦争末期で資料も少ない上、軍事機密のベールに覆われたテーマなので調査は大変だったと思う。現地調査の対象は十九府県が、

二つを統合してまとめた。地下軍需工場と朝鮮人強制労働の姿を多く程度で見てほしいか。日本と朝鮮の今後の在り方を考えよう。でも貴重な調査報告だ。

また約十五年前に砕石場になった京都府福知山市の地下工場、強制連行についてはほとんど知られていなかった富山県・庄川町雄神の三穀農工業地下トンネル、約三千人の朝鮮人が掘った静岡県掛川市の中島飛行機地土場などについての写真や関係者の証言が入った報告が収められている。

徐代表は「これはあくまでも中間報告、多くの人にさら

神 90.7.14

50

社 説



戦時中、強制連行された朝鮮半島の人たちの名簿捜しに反応は冷たい。政府、自治体、関係企業は積極的に取り組むべきだ。

終戦時まで約150万人も

盧泰愚韓国大統領が来日の際、提出を求めていた戦時中の「朝鮮人強制連行者名簿」の調査は、いまのところ北海道や兵庫の一部で発見されているくらいで進展はあまり見られない。富山



工場地下トンネルの調査 (庄川町)

県でも労働者の通達で職業安定課が、各職安や地方自治体、企業へ調査の依頼を始めているが、反応は全く県としても県公文書館建設時に資料の整理を終えており、該資料はなかったとの

進まぬ強制連行名簿捜し

見解をとっている。

強制連行は、国家総動員法により労働力不足を補うため昭和十四年に内務・厚生両次官名で発表した朝鮮人、中国人らの日本内地、樺太、南方への強制動員で、朝鮮総督府が直接手を下す「人符」が公然と行われた。内務省労働局(当時)の資料では十四年から終戦の二十年までの連行朝鮮人は約七十万人。しかし、在日朝鮮人

らの調査では、この六年間の連行者は約五十万人で、炭鉱に六十万人、軍需工場に四十万人、土建に三十万人のほか、軍人・軍属、従軍慰安婦として数十万人が強制連行されたという。

富山県内の実情はどうだったか。県警察史、県終戦処理史には、わずかに触れているだけ。昭和十二年、県内に在住する朝鮮人は二千五百人弱で大半が土木建築労働や唐問取に従事して

国六位の軍需工業県となっていた。このため県内の労働力は、あまり尽きず県外からの挺身隊、報国隊の受け入れに追われるようになった(県終戦処理史)。現存している企業もある。

朝鮮総連の日本語版機関紙「朝鮮時報」の連載「富山県の朝鮮人強制連行」には、ダム、発電所、運河、軍需工場、飛行場建設などの工事に従事し、多数の死傷者を出した苦難の足跡が生々しく紹介されている。昨年夏、庄川町雄神の三菱地下工場のトンネル跡が兵庫朝鮮関係研究会と地元市民グループによって発見され、本紙にも掲載され、関心を呼んだ。

果たすべき最低の義務

と行われ記録に残るのは、昭和十三年十二月の黒部志倉谷と十五年一月の阿曾原の日電発電所工事現場での雷崩による大惨事だ。死者はそれぞれ数十人に達したが、うち朝鮮人が半数を占めている。この災害は大々的に報道され、いまでも土地の古老らに語り継が

れているくらいだ。すべての労働者が強制連行されてきたとは限らないが、全国的にとんでも肝心の名簿は、戦犯証拠隠滅のため政府や軍の命令で焼却したという。

富山県では、目ぼしい炭鉱や鉱山がなかったことから、強制連行には無縁と思われがちだが、実情はかなり違う。調査は緒についたばかりだ。戦後四十五年間も放置して、今ごろと批判されても仕方ないが、政府や自治体、関係企業が協力して詳しく調査し名簿を作って処理することは最低の義務であろう。だが、政府は補償問題などが再燃することを恐れ、及び腰と伝えられる。調査してみたが名簿がないから打ち切りでは非人道的過ぎはないか。

先の盧大統領来日で日韓両国は新たな時代に入り、日朝関係もようやく改善の兆しが見えてきた。真の歴史を掘り起こし、国民、民族間で共通の認識を築き上げる努力から、過去へのこだわりを解きほぐしたい。

北日本新聞 90.7.16

不二越に朝鮮人強制連行

大戦末期

少女、青年ら1624人

調査団が来県し判明



県情報公開窓口で、関係文書の索引を調べ、洪さんと沢田さん(右)

第二次世界大戦末期、富山市の不二越に朝鮮半島から少女千八百九人と青年男子五百三十五人の合わせて千六百二十四人が強制連行されていたことが十六日、朝鮮人強制連行真相調査団(本部・東京)メンバーの調査で明らかになった。また、県公文書館へも「知事報告」の公開、閲覧を申し入れ、「至急、未整理資料の調査を行う」との回答を引き出した。

調査のため富山市を訪れているのは、同調査団の洪祥述(ホン・サンジン)さん。大阪府尼崎市北天物町。洪さんは兵庫朝鮮関係研究会の会員でもあり、昨年八月にも庄川町の雄神地下工場調査に来県した。近く明石市店から出版する「地下工場と朝鮮人強制連行」の中で、庄川町雄神地下工場の章を担当している。

洪さんはこの日、昨年の調査に協力した庄川町議、沢田純三さんの案内で、富山市石金の不二越本社を訪れ、丸山角三郎総務部長と懇談。同社

棟相を呈した」と記述されている。

また、五十年史には立山山ろくに建設中だった十四万平方材の地下工場・大山製造所の記述も。「精密工具、工作機械の一大地下工場とする構想のもと、工場建設が進められていた」と書かれ、昭和二十年六月の同社組織図にも、同製造所が記されていた。

丸山部長は「わが社は朝鮮人を日本人と差別なく扱い、働いてもらった。希望者は全員、自国へ帰したと聞いてい」と強調。「あにく、社史編さん時の資料や、朝鮮人名簿などは、現在残っていない」と語った。

同社訪問に先立ち、洪さんは県議会の社会福祉室を訪れ、同党議員団の協力を得て社会福祉課や職業安定課、情

※ じて県内企業に問い合わせているが、成果は上がっていないと答えた。

また、各都道府県で永久保存資料とされている知事引継ぎの公開問題で、県公文書館で、「昨年夏以降、資料庫を

例は「昨年夏以降、資料庫を捜したが、昭和十一年から三十年までの分は不明」と回答。

洪さんは「金園の都道府県では一級的重要資料として保存されており、富山県にもない事はないはず」と反論した。

大野館長は「十日くらいかけ、再度調べる」と確約した。

北日本新聞 '90.7.17



千子の十架架成

日本映画界の巨匠・佐々木康三監督の傑作映画「千子の十架架成」



千子の十架架成
佐々木康三監督

「千子の十架架成」は、佐々木康三監督の傑作映画である。この映画は、朝鮮半島の地下抵抗運動を描いたもので、千子という女性を中心に展開する。千子は、日本の地下抵抗組織「千子の十架架成」のリーダーとして活躍する。この映画は、戦時下の日本社会に於ける抵抗運動のリアルな描写が特徴である。佐々木監督は、この映画を通じて、戦時下の日本人の精神世界を深く掘り下げた。千子の物語は、愛と犠牲の物語であり、戦時下の日本人の魂を映し出した傑作である。

佐々木康三監督の傑作映画「千子の十架架成」は、戦時下の日本社会に於ける抵抗運動を描いた傑作である。この映画は、千子という女性を中心に展開する。千子は、日本の地下抵抗組織「千子の十架架成」のリーダーとして活躍する。この映画は、戦時下の日本人の精神世界を深く掘り下げた。千子の物語は、愛と犠牲の物語であり、戦時下の日本人の魂を映し出した傑作である。

長野・松代に大本営を移せ

敗色濃く戦争末期…

【本報東京二十日電】大本営が、戦況の悪化に伴って、長野県松代町に臨時大本営を移すことが、二十七日、大本営発表で明らかになった。大本営発表によると、大本営は、戦況の悪化に伴って、松代町に臨時大本営を移すことが、二十七日、大本営発表で明らかになった。大本営発表によると、大本営は、戦況の悪化に伴って、松代町に臨時大本営を移すことが、二十七日、大本営発表で明らかになった。



松代大本営の地下通気口に見られる「ハンク」の跡。おぼろげながらも、通気口の跡もみられる。これは「おぼろげながらも、通気口の跡もみられる。これは「おぼろげながらも、通気口の跡もみられる。」と記されている。

千子の十架架成

来月に大阪で上映会

朝鮮人7000人 強制労働描く

地下壕13か掘った

【本報東京二十日電】朝鮮半島の地下抵抗運動を描いた映画「千子の十架架成」は、戦時下の日本社会に於ける抵抗運動を描いた傑作である。この映画は、千子という女性を中心に展開する。千子は、日本の地下抵抗組織「千子の十架架成」のリーダーとして活躍する。この映画は、戦時下の日本人の精神世界を深く掘り下げた。千子の物語は、愛と犠牲の物語であり、戦時下の日本人の魂を映し出した傑作である。

賠償2億円 日本に要求

サハリンに残留の「韓国人」と家族ら

来月、20人が提訴

「帰還の努力せず」

戦前、朝鮮半島から南洋へサハリンへ強制送られ、戦後もそのまま残留している韓国人・朝鮮人の実態を調べていた日韓合同の非強制団は二十九日、日本政府に賠償二億円の賠償を求める訴えを、八月中に東京地裁に起こすことを決めた。原告は残留した人たちと、韓国でも戦後の帰りを待ち続けた家族や重傷を負った二十人。「日本」としてサハリンに送り込まれたが帰還の努力をしなかったのは「不作の不法行為」であると考え、四十五年開放されたサハリンの「空白」の賠償を請求する。サハリン問題は、残留者を韓国へ帰還させるよう政府に求めた裁判が、一九七五年から三年半にわたって東京地裁で審理され、原告四人のうち三人が死亡し、一人が帰還できたため、途中の原告側が取り下げたが、今度の裁判では、日本政府の不法行為責任そのものが問われる。

日韓の合同非強制団は、六月初「個人」として韓国への帰還を断るに韓国へ、今月初めにはサハリンで現地聞き取り調査を非強制団によると、損害賠償の請求を求めた。この結果、韓去り、戦後も韓国への帰還についで努力しなかった日政府の不法行為の「日本人」としてサハリンに送り込んだ人たちは、日本に支配地帯まで連れ戻す「復讐義務」を果たさなかった行なひで移され、今もサハリンに残留している高齢の男性ら十人。また、一九七〇年代半人が原告になる。無関係と主張は、サハリン残留の韓国・朝鮮人の人だが、いずれも「韓人」から日本国の申請相次いで出た。韓国へ、サハリンに残留した人たちは、許可しなかったのは「種族的な偏見の妨げにある」と非強制団は主張する考え



サハリン
「シシマシシ」(東京)
コルサコフ大泊
タタル(同じ)海峽
ホルムスク(真前)
北海道
サハリン

(社会面) 賠償記事

請求額は一人一律一千万円。謝料として要求する。現地調査一命したまま返っていない日半世紀にわたり故郷に戻れず、で戦中、強制連行し難かせ。本企業があることが判明したた家族離散を辿られた精神的慰一人たちの結を、天引き貯め、政府への賠償要求とは別の双方で強まっている。

190.7.30

サハリンに残留する韓国人と朝鮮人の実態を調査した日韓合同の非強制団は、八月中に東京地裁に賠償二億円の賠償を求める訴えを提起する。原告は残留者とその家族ら二十人。日本政府は「不法行為」を認めず、帰還の努力を怠ったと主張する。原告側は「日本は戦後、サハリンに送り込んだ人々を日本に連れ戻す義務を負った」と主張する。日本政府は「戦時中の強制連行は不法行為ではない」と反論している。この裁判は、戦時中の強制連行に対する賠償請求の先駆けとなる可能性がある。

表公

岩倉の各職88人公

岩倉の各職88人公

強制連行の帰国時沈没

遺族会、補償要求へ

第二次世界大戦中、広島市内の三菱重工工業広島機械製作所(現広島製作所)に強制連行され、戦後に帰国船が遭難して死亡したとみられる人たちの遺族会が、戦後の海軍首相の謝罪、強制連行者名簿調査の約束などを求め、一九七〇年代から同遺族会が三菱重工工業(本社・東京、相川賢太郎社長)に求めてきた賠償要求、徴用工名簿の公開、墓参団の招待などについて話し合

八年前の総会は、四日午後二時から、ソウルのキリスト教会館で開かれる。康大統領来日の際、海軍首相の謝罪、強制連行者名簿調査の約束などを求め、一九七〇年代から同遺族会が三菱重工工業(本社・東京、相川賢太郎社長)に求めてきた賠償要求、徴用工名簿の公開、墓参団の招待などについて話し合

日弁連人権擁護委員会在籍被爆者問題委員長の高木健一弁護士が五日に渡韓し、遺族からの聞き取りなど、事実関係の調査を開始する。同弁護士は、今年、やっと日本の政府見解が「遺憾」から「謝罪」になった。口だけの謝罪を本物にするためには、戦後処理を具体的にすることが必要で、その第一段がサハリン残留朝鮮人問題、第二段が三菱徴用工問題と考えている」と語り、秋には、三菱重工側から聞き取り調査も始めるという。

鈴木亮三三菱重工工業広報課長代理の話 当時、社としてき

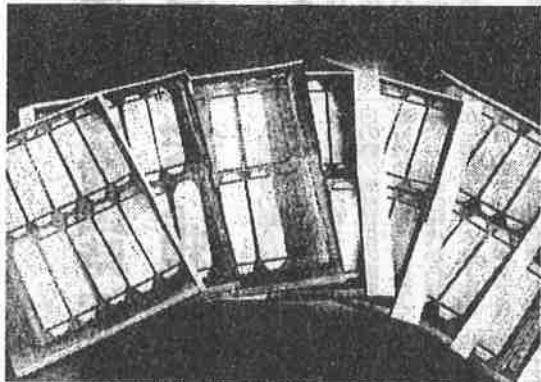
る限りのことをしていると聞いて、国と国の問題であり、一企業として対処すべきことではないと考える。

三菱重工工業広島造船所・機械製作所に朝鮮半島から強制連行された

二千五百人から三千人の徴用工のうち、二百四十一人は一九四五九月十五日、被爆直後の広島から鉄道で北九州市戸畑まで行き、枕崎台風前に帰国船に乗らされたまま行方不明になった。この二週間前、内務省管理を求めている。

昭和 90. 8. 2

強制連行人の朝鮮人 新明和が初公表



新明和工業で見つかった朝鮮人労働者の名簿 (コピー)

同会は四年前から強制連行の名簿探しを続けており、六月末には、兵庫県下で朝鮮人の労働のあったことが明らかになった。このうち、一日までに九社から回答があり、その中で「川西航空機」時代の朝鮮人三十八人分の名簿が残されていたことが明らかになった。見つかったのは、川西航空機甲南工場で働いていた三十八人の賃金台帳と思われる冊子と、書類をつづったもの。台帳は日5判の大きさで、表に日本名、生年月日、入社年月日など、裏には本籍地として朝鮮の地名を記入した短冊

戦時中の朝鮮人強制連行の実態を明らかにするため、兵庫朝鮮関係研究会(後援機関)は、朝鮮労働者名簿の調査を企業に求めていたが、一日、戦前の川西航空機の流れをくむ新明和工業(本社・西宮小倉町)が、同会に三十八人分の戦時中の朝鮮労働者の名簿を公開した。同会では、見つかった名簿を基に追跡調査し、当時の実態を明らかにしたいとしている。政府が強制連行された朝鮮人名簿の調査に乗り出して以来、企業が自ら調査した名簿を公表したのは初めて。

保管の名簿38人分

研究者ら 実態解明へ追跡調査

が二、三、四、五人分ずつとじてあった。いずれも同社の書庫に保管されていたもの

で、空襲で他の書類の多くは焼損、残されていた書類にも水損の跡があった。

一方、書類のつづりはA4判で、朝鮮労働者の台帳などのほか、昭和二十一年の神戸労働委員長名での「朝鮮労働者に関する件」と題した、朝鮮人労働者数、帰国者数などを問う合わせた書類が、同年に厚生省の指示に基づいて同委員長で出された朝鮮人

る可能性が高まった。今回の名簿が強制連行された人のものかどうかは分らないが、追跡調査し、朝鮮人強制連行の実態を明らかにしたい」と話した。

また、小田さんは「民間企業が自ら名簿を公開したのは画期的だ。いまわしい過去を反省し、未来についでいくとともに、民主主義を守るためにも、これに続いて各企業

台湾人及中国人労働者の給与等に関する件」と題する書類が含まれていた。

名簿公開後、後代表ら同会のメンバーと「戦争の記録を残す西宮市民の会」の代表で作家の小田実さんらが西宮市内で記者会見、同研究会の旗幟を掲げ、同研究会の旗幟を掲げ、神戸労働者の所管行政機関や厚生省に強制連行された朝鮮人の名簿が残っていた

神戸 1990.8.2

(X: P. 58~60は、8月7日の
記者会見の配布した
資料の全文です。)

労働省発表
平成2年8月7日

労働省発表

名簿式徴用者等

労働省発表

職業安定局庶務課
担 課 長 戸 利 和
課長補佐 久保村 日出男
当 電話 593-1211 (内線5712)
夜間直通 502-8768

いわゆる朝鮮人徴用者等に関する名簿の調査について

- 1 標記の調査については、5月25日の日韓外相会談の際に、^{チェン}崔浩中韓国外務部長官から、終戦前に徴用された者の名簿の入手について協力要請があったことを受けて、関係省庁の会議において、労働省が中心となって労働行政関係機関を重点に、いわゆる朝鮮人徴用者等に関する名簿について調査を行うこととなったところである。
- 2 労働省では、徴用者を中心に官斡旋（注）などにより我が国の事業所において労働に従事したいわゆる朝鮮人徴用者等に関する名簿について、次のとおり調査を行ったところである。

(1) 下記の施設についての調査

- イ 労働本省
- ロ 都道府県組織（職業安定主務課その他関係部局、図書館等の施設）
- ハ 公共職業安定所

(2) 全市区町村に対する調査依頼

- (5) 当時の事情に詳しい職業安定行政関係者からのヒアリング
- (6) いわゆる朝鮮人徴用者等を受け入れていた可能性のある事業所への照会
- (7) その他情報を把握した場合の当該情報の調査

3 この結果、別紙の名簿を確認した。

これらの名簿のなかには、いわゆる朝鮮人徴用者等の名簿であることが明白なもののほか、入国の経緯が不明である朝鮮人労働者の名簿が含まれている。労働省としては、関係省庁と協議の上、これらの名簿を記載した目録を内閣官房に提出した。同目録は、本日、外務省を通じ、在日韓国大使館に提出されたところである。

(注) 官斡旋 …… 公的機関の斡旋によるもの

58
72

いわゆる朝鮮人徴用者等に関する名簿の調査結果

標記については、以下のとおりである。そのうち、入国の経緯が伴明しているのは、労働省が保有するもののみであり、それ以外のものについては、いわゆる朝鮮人徴用者等であるかどうかは不明である。

なお、民間が保有するものとして情報が寄せられたものについては、参考として添付した。これらについては、入国の経緯は不明である。

(国)

	保有者	内 容	人 数	備 考
A	労働省	昭和21年に都道府県が行った朝鮮人労働者に関する調査結果16県分(岩手県、宮城県、秋田県、茨城県、栃木県、長野県、岐阜県、静岡県、三重県、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県、福岡県、佐賀県、長崎県)	68,941	官斡旋・徴用 49,182 自由募集 7,217 不明 10,542
B	防衛庁	「特設水上勤務第104中隊陣中日誌」の附表の「球第8887部隊軍夫編成表」	668	
計			67,609	

(地方自治体)

C	北海道立文書館	帯広土木現業所が作成した「朝鮮労働者連名簿」	148	
D	北海道開拓記念館	北海道の虻山が作成した「半島人労働者名簿」	2,544	その他相当数の未整理名簿がある
E	北海道立図書館	北海道の虻山が作成した「朝鮮人労働者名簿」等	411	
F	豊川市役所	豊川海軍工廠火工部の工員名簿	198	
G	長崎国際文化会館	長崎県の企業が作成した「霧島隊便覧」	463	非公開
H	長崎国際文化会館	長崎県の企業が作成した「福田寮収容者名簿(朝鮮人)」	90	非公開
計			3,854	

総 計			71,463	
-----	--	--	--------	--

(民間)

県民生活部が調査した民間に保管されている朝鮮人労働者名簿

I	民間人が作成した福島県の炭鉱の朝鮮人労働者名簿	212	
J	茨城県の鉱山が作成した朝鮮人徴用者名簿	4,955	非公開
K	山梨県の土木工事の「労働者名簿」	4,081	
L	兵庫県が作成した「健康保険被保険者資格喪失届」及び「厚生年金被保険者資格喪失届」	181	非公開
M	韓国人原爆被害徴用者同志会名簿	158	
N	山口県の炭鉱が作成した「集団渡航朝鮮人有付記録」	518	
O	民間人が鳥取県の鉱山に保管されていた年金保険料控除計算書から作成した朝鮮人労働者名簿	94	
P	大日本産業報国会が作成した「殉職産業人名簿」	1,173	
Q	福岡県の企業が作成した朝鮮人労働者名簿	388	非公開
	計	8,115	

(別添表参照)

	331	(朝鮮人労働者名簿) 山口県 山口県炭鉱	文化遺産部	3
	338	(朝鮮人労働者名簿) 山口県 山口県炭鉱	文化遺産部	3
	111	韓国人原爆被害徴用者同志会名簿	文化遺産部	1
	801	山梨県 山梨県土木工事	文化遺産部	7
民間人	191	(健康保険被保険者資格喪失届)	文化遺産部	1
民間人	00	(厚生年金被保険者資格喪失届)	文化遺産部	1
	3,681			11

	2,017			11
--	-------	--	--	----

朝鮮人強制連行者 調査結果発表

「あまりに形式的すぎる」「政治決着では何も解決しない」——七日、政府が発表した戦前、戦中の朝鮮人強制連行者調査の結果は、この問題を調べている市民グループや韓国・朝鮮人を失望させた。政府資料でも六十七万人、実際はそれ以上と言われるが、今回の調

査でわかったのはわずか七万五千五人。しかも多くが民間の調査結果や公的機関で見つけた資料の追記。当時、朝鮮人労働者を使っていた企業の資料はわずかしか集まらなかった。強制連行者問題を調べている各地の人々の「実際は日本の責任を明らかに」といふ声はかなげにわづか

埋もれた責任「60万人」



①札幌市の北海道開拓記念館に保管されている朝鮮人強制連行者の名簿や資料類の朝鮮人強制連行者が働かされた地下トンネルを見学する中学生②高槻市成合で今年6月2日

企業の資料、わづか

本土決戦に備えて、大本営 掘ったところで敗戦を迎えたと思う。自ら行った証憑も政府機関に移転した。1945年9月の保存を遺 減を備うには今回の調査はあ める色んな民間団体が集め まりに形式的」と、政府の対 本営の造営工事にも大塚の朝 鮮人労働者が徴用されたが、 労働者がいたことがわかって いる。しかし死者数、労働状 況などの記録はわかっていな い。同会の青木孝寿会長は、戦 田で働かされていた朝鮮人労 働者の名簿をまとめた。前盛 約十三の地下壕(トネル)を 後、内務省の命令で築かれ 抜田で育ち、労働条件の下

で働かされ死んでいった朝鮮 人労働者を見てきた大塚さん 約二割、千七百七十三人が韓国 が調査を始めたのは、同市の ・朝鮮人とわかったが、崔さ んは「あと三割が日本名を名 の倉庫にあった資料や寺の過 乗っていた韓国・朝鮮人」と 去職、朝鮮人労働者の証言を 集めたほか、韓国にも足を延 ばした。三十年かかってまと めたのが、「朝鮮人強制労働 造や軍需物資の保存を目的に 掘った大阪府高槻市成合地区

人分を朝鮮人強制労働者名簿」に宛る地下式トンネル「高槻 市」。大塚さんによると、終 戦前、世帯別には最大約七 千人の朝鮮人がいた。「調査 を始めたのは各方面から庄 力がわかった。日韓友好のた めにも各種調査はせむと必 要」と話す。

福岡県警本部被服貯蔵の韓 国・朝鮮人の無罪証書(保 証書)「寺」(福徳院)の住職、 崔慶尚さん(76)は、七月、 戦時中に軍需工場や被服で事 故死した日本人や韓国・朝鮮 人の「労働者人名簿」の写 真を提出した。戦時中の 労働者統制組織「大日本産業 報国会」がまとめたもので、 昭和十五年十一月二十三日か ら十七年十一月二十二日まで の労働者六百五十六人を集 計結果を行政に突きつけ、行 別に列記、殉難年月、所属廠 政の責任を追及して「」と 話している。

第三種郵便物認可

文化 (夕刊)



大阪府高槻市の北部山地に阪
 難直前に掘られた地下トンネル
 群が現れている。軍はその工事
 を秘密部隊で「タチ」呼んで
 だ。タカツキ(高槻)チカ地
 下(ソウゴ)の二つであ
 る。朝鮮人の動員などで工事
 を急いだ。敗戦によって工事
 中のまま残された全国の地下
 掘川トンネルだけでも百を超
 す。「タチ」は其数代代
 どともに大きく、計画面積一
 十平方マイル、その半完成し
 ていたといわれている。

トンネル群は、長さ、3号
 のそれぞれが独自の性格をも
 ち、残っているものを停止す
 と延べ推定二哩を越えるに達
 する。私たちのグループはこれ
 「高槻」タチン」戦跡として
 保存運動を続けており、その課
 題は国民的課題につながるもの
 としている。

ここで作業に動員された朝鮮
 人の数は、家族をふくめた一
 五千とか三万と伝えられ、よ
 とは比較にならないほど多い。さ
 らに戦前末期には学徒、赤仕
 団、国土防衛隊などから国民学
 校の半半までも動員している。
 それらのことから、本土決戦機
 期地として利用されたものの尤
 と推定するが、神懸の例から
 みて「タチ」に集まった朝鮮

戦争・戦後責任 どう果たす

日本人の立場から一朝鮮人動員を考える



宇津木 秀甫

(高槻「タチ」戦跡保存の会世話人)

異民族連帯へ向けて

「タチ」戦跡保存運動の体験から

人たちが、戦後に「タマ」よけに
 集められたのではないかと懸
 っていたのも決して的外れでは
 ないだろう。

朝鮮人家属はどんな方法で集
 められたのか、中程整理部が
 空襲をこなせて本部使用地下
 掘設する目的で事が始まっ
 た。四五年、空襲が激化したた
 び川崎航空機庫(現取替)で戦
 闘「飛燕」のエンジン生産を
 する計画がなされた。とろ
 が色が濃くなった六月、天皇
 陛下の最高会議で「国体維持」
 ため「奉公団」の打撃を専
 るとして本土決戦の方針が打
 ち出され、「タチ」は本土決
 戦に動員された。小規模な高槻の土木業を
 中心に掘削地が指定された。3号ト
 ンネル群が掘り始められ、他の
 多くの掘設建設のために動員で
 きるすべての人が集められた。
 いわゆる公権力による無法な拉
 削人が朝鮮人々頼って「タチ

らつき、しめるは一九三六
 年高槻市生まれ、慶大中退。
 地蔵史・岩南史調査を経て高
 槻史談会世話人、戦後の記録を
 残す高槻市民の会代表、地域文
 化研究所を主宰し調査家として
 も活躍。

致によって強制に進行された
 朝鮮人集団も加えられ、動員さ
 れたような住みかたであったと
 いう証言がある。

空襲下各地で泳がされてい
 た朝鮮人が集まった側面や、秘
 決戦の根拠地に策定されたの
 密工事に家族も巻き込まれる
 人々を今どう理解すればいい

周囲の場合よりも下町、
 孫請けの形で朝鮮人が集めら
 れ、それにつれて家族が集まっ
 たりした。小規模な高槻の土木業を
 中心に掘削地が指定された。3号ト
 ンネル群が掘り始められ、他の
 多くの掘設建設のために動員で
 きるすべての人が集められた。
 いわゆる公権力による無法な拉
 削人が朝鮮人々頼って「タチ

のか、大阪で戦前から住んでい
 た多数の朝鮮人たちは掘削に入
 れる必要があった。軍事機・機
 関大規模の空白の隙、要請した
 強制進行の名簿とはいったい、
 どの簡明を指し、これら全体の
 朝鮮人たちはどう扱おうとする
 のか疑問がわく。高槻にはその
 時から今も朝鮮人朝鮮人の住む
 集落があり、二世たちが一世の
 ルーツを学びながら権利意識に
 目覚めて加担員を告発する。
 当時は何の政策も許され
 ず、知る権利もなかった日本側
 市民も、底流で民族差別を推し
 ていたと「百発するに至って

しかし朝鮮から在日した朝鮮
 人と接触して連帯してきた経
 験も大阪人には多い。朝鮮人た
 ちが「タチ」に流れてきたと
 き、差別意識もたなかった人
 たちもいたことを考慮に入れる
 必要がある。

朝鮮人に組織させた扶養会が
 人災を招いたという証言も無
 くない。強制労働のイメージ
 を明らかにするために、間諜が
 とりこんでいた朝鮮人管理シス
 テムにも注目する必要がある。
 その基本はいまでもなく国民
 化政策であり植民地主義的融和
 政策である。当時の植民地経済
 政策で、当時の植民地経済
 捨てない姿勢でいてほしいと思

では「アタシ」政策が奨励さ
 れた。間諜はその労働政策にた
 けていたといわれている。天皇
 の赤子に改造して民族主体を尊
 る政策によって人災を招いて作
 業をさせた人であり、その
 間に豊田や上野、豊原による
 無法な暴行が多発したことは証
 言も多い。

それではおぼろ、よそのトンネ
 ル工事朝鮮人が受けた待遇と
 比べていくとくらべて置かれたか
 に見える「タチ」の側面がある。
 植民地政策や戦争政策を乗り越
 えて同胞同士が共生するルー
 ルを体得させていた大阪地域の
 特徴といえるかもしれない。

「タチ」戦跡保存運動のなかで補
 利意識が目覚め、二世たちとの
 連帯が強固になり、一世たちと
 も連帯が芽生えている事実を私
 たちは大切にしたいと思ってい
 る。調査を促進し、トンネルを
 保存し、私たちが歴史を語り
 ながら生きていくには公的行政力
 が必須で、私たちは陣営を連
 帯を強固にしよう。

また日本の政府や自治体行政
 がこの市民史的価値に際してこ
 と、植民地大動員がいつの強制運
 行という過程を踏まえることが不
 可避である。昭和天皇も現
 在も言及した「今世紀の一時
 期における国運の不安な関係」
 などという重要な時代規定を東
 り越えて、日韓併合以前からの
 日本の侵略行を痛感し、韓国
 政府も自らの在日同胞全体を見
 捨てない姿勢でいてほしいと思

「不幸な歴史」風化?

北海道・浜頓別

慰霊碑強制徴用 4年も荒れ放題

15年間供養の日本人僧他界

地元は厄介扱い

【札幌】第二次大戦当時、日帝から軍事飛行場建設に強制徴用され、犠牲となった同胞青年を悼む日本最北端にある慰霊碑が、荒れるがままに放置されている。地元民団とともに建立にあたり、慰霊碑を管理してきた日本人僧りよが亡くなったためだ。地域社会ではお荷物扱いする風潮まで現れている。北海道は強制徴用が最初に行われ、最も過酷だったとされる土地だ。その重い事実の「印（しるし）」が年月とともに風化しようとしている。

栄養生 150人死亡の跡

軍事飛行場の建設

碑は、一九四〇年十一月から北海道宗谷郡猿払村の旧浅茅野飛行場建設に駆り出され、栄養失調や伝染病などで倒れた百五十余人（推定）の韓国人青年を悼むもの。遺骨の一部と茶わん、衣類などを

すかな遺品を納めている。

当時の工事現場

だが、かつては多くの人を往來させた木製の橋は落ちてい

て、橋がなければ渡りにくい。

周辺はこの地方独特の湿地の

「道場」周辺や碑のまわりには夏草が背高く生い茂り、クモの巣が張られて、近づくのも容易でない。

緑ヶ丘一帯は公営住宅が建設されており、住民の間からは環境整備を求める声が高いという。このような事情を背景に、浜頓別の三月定期町議

会で質問に答えた町長は、石

仏群（慰霊碑も含む）の処理について、「宗教施設」を理由に「管理につきま

しては、町がただちに中に入

ってやるというところにはな

らない二五月二十日付議会だより」と突き放した。

「道場」を主催する角田観山師（本化仏教薬師寺派檀大僧正）が、当時の民団稚内支部（現在は旭川支部に吸収合併）と共同で碑を建立したのは七一年十月。以来五月と九月の年二回、韓日双方の有志が集まって慰霊祭を継続してきた。

しかし、角田師が体調を崩し、八六年四月に入院してから、中止のまま。本山から派遣されるはずの後任もなくな

りました。八八年五月に亡くなってしまった。慰霊碑の放置はすでに四年数カ月に及ぶ。

浜頓別の一部有力者の間から「隣りの猿払村で処理すべきことなのに、当方は迷惑だ」との声が伝わっている。碑の風雪であつたようだ。



碑のある仏教道場への橋は落ちていた—浜頓別町緑ヶ丘で



碑のまわりには夏草が...

「宗教施設」を理由に「管理につきましては、町がただちに中に入ってやるというところにはならない二五月二十日付議会だより」と突き放した。「道場」を主催する角田観山師（本化仏教薬師寺派檀大僧正）が、当時の民団稚内支部（現在は旭川支部に吸収合併）と共同で碑を建立したのは七一年十月。以来五月と九月の年二回、韓日双方の有志が集まって慰霊祭を継続してきた。しかし、角田師が体調を崩し、八六年四月に入院してから、中止のまま。本山から派遣されるはずの後任もなくなりました。八八年五月に亡くなってしまった。慰霊碑の放置はすでに四年数カ月

朝鮮人強制連行

民団独自に
名簿の調査

在日大韓民国居留民団は日本の植民地支配からの解放四十五周年に当たる十五日を期して、「第二次大戦強制連行犠牲者同胞慰霊事業」に着手する、と十四日発表した。民団では、韓国政府の要請で日本政府が先に行った戦前・戦中の強制連行朝鮮人名簿の調査を「極めて誠意のないもの」と批判、独自の実態調査を二年がかりで行うとともに、二十五億(約五億円)の募金を募り、犠牲者の慰霊塔を韓国に建立、あわせていまだに日本各地に放置されている犠牲者の遺骨・遺品の収集に当たるといふ。

国家動員法によって朝鮮半島から日本各地の炭鉱や工事現場などに労働力として強制連行された朝鮮人は約七十万人、軍人・軍属、従軍慰安婦も含めると第二次世界大戦に駆り出された朝鮮人は約百二十万人に上り、うち二十数万人が犠牲になったと民団では推定している。

しかし、日本政府が行った徴用朝鮮人の名簿調査では約八万人の名簿の存在が確認されただけ。しかも、日本政府が調査結果を説明したことから、独自調査に踏み切ったといふ。

強制連行の賠償求めデモ

光復節前に韓国入遺族
ワウル十四日小田川特派員

戦時中に徴兵、徴用などで犠牲になった韓国人の遺家族らによる「太平洋戦争犠牲者遺族会」(襄滄元会長、約一万人)は光復節(独立記念日)前日の十四日、ソウル・竜山駅前で大集会を開いた。遺家族ら約五百人は日本政府に対して「強制連行犠牲者の名簿公開」を公式謝罪と遺骨の発掘、送還を国際的慣行に従った賠償などを求める声明を採択。中心街の日本大使館付近までデモ行進した。

米軍捕虜の朝鮮人徴用者

2400人の名簿公開

釜山

ワウル二十一日小田川特派員 黄島などで軍用として労役に就き、戦後米軍の捕虜となった朝鮮人

朝鮮人徴用者約千四百人の名簿が二十一日、釜山在住の元徴用者の家族によって明らかになった。朝鮮人の軍人・軍属については、さきに厚生省の地下倉庫から約五万人分の名簿が出てきたが、米軍捕虜として収容された人たちのまとまった名簿が公開されたのは初めて。この家族は今回の名簿をもとに「対日補償要求は当然」としており、日韓間の戦後処理にも新たな波紋を投げかけた。

今回、名簿を明らかにしたのは釜山市南区の妻貞店経営、宋南洪さん(四四)。宋さんによると、父の宋進洪さん(五三)全羅南道光陽郡が戦争末期の一九四四年、軍属として徴用をうけ、激戦地だった硫黄島で建設

工事についた。米軍上陸後に捕虜となり、ハワイの捕虜収容所に送られ、硫黄島以外の南洋諸島で捕虜になった朝鮮人軍属らと食料。帰国後互いに連絡をとり合うため、自主的に名簿を作成したところ、約千四百人に達し、複製してそれぞれ一部ずつ分け合ったといふ。宋進洪さんは四五年十月ごろに帰国した際、労役で使った地下足袋などと共に、この名簿を持ち帰った。

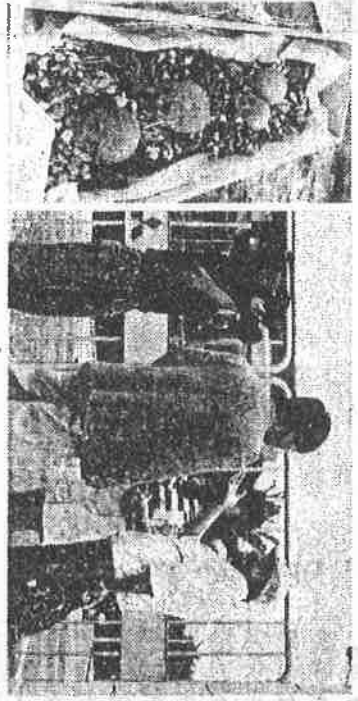
いま宋南洪さんの手もとにある名簿は縦二二センチ、横三十三センチのザラ紙二十五枚分。宋さんは「名簿の歴史的価値がわからないまま保存してきたが、最近、強制連行の真相が問題になっているため、公開することにしたい」といふ。「日本の植民地支配のため、死傷をくぐることにした父親が日本政府に対して補償を求めるのは当然のことではないか」と話している。

1990.8.22

●すれ違い

その結果の労働部
 電の旗日本は至り
 からの交渉といひ
 100人の要求を
 所(区労働局長)で
 50人の三選工連は
 50人の要求を
 40人の要求を
 40人の要求を
 40人の要求を

三選工朝鮮人徴用工の補償要求



問われる企業の戦争責任

先の大韓中、朝鮮半島の区市民の三選工連は、戦時体制の中で徴用工として
 40人の民衆の代表として、大韓中(大韓)の「三選工連(大韓)の代表として、
 大韓中(大韓)に補償金を支払うことを求める決議をした。日本企業は、戦時体制
 の下で、民間企業は戦争責任を、補償と認め、日本企業は、戦時体制で現に
 した。

●二つの社史

三選工連は、1950年(昭和25年)に
 設立された。当初は、朝鮮半島の
 労働者による組織として、
 活動していた。その後、
 日本企業に労働者を
 供給する役割を果たし、
 戦時体制の中で重要な
 役割を果たした。

鈍い対応に不満も
 ドイツの会社と対照的

ドイツの会社は、戦時体制の中で、
 労働者を積極的に活用し、
 生産性を高めた。一方、
 日本企業は、戦時体制
 の下で、労働者を
 単に労働力として
 扱っていた。この
 違いが、戦後、
 労働者の権利を
 求める動きを生み
 出した。

●新しい流れ

三選工連は、戦後、
 労働者の権利を
 求める動きを
 推進してきた。この
 流れは、戦後、
 労働者の権利を
 求める動きを
 推進してきた。

三選工連は、戦時体制
 の下で、労働者を
 単に労働力として
 扱っていた。この
 違いが、戦後、
 労働者の権利を
 求める動きを生み
 出した。

三選工連は、戦時体制
 の下で、労働者を
 単に労働力として
 扱っていた。この
 違いが、戦後、
 労働者の権利を
 求める動きを生み
 出した。

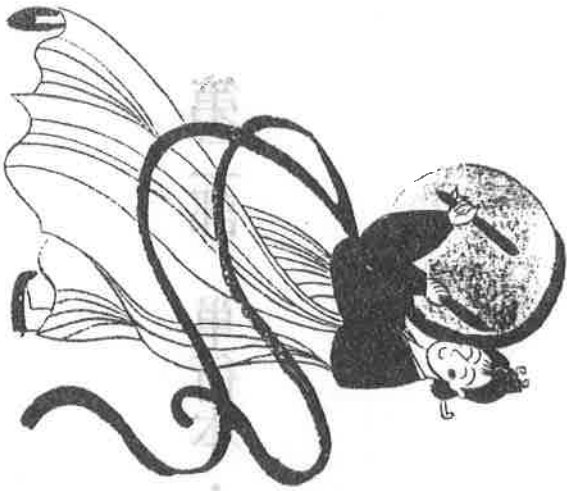


第2部の①

単行本 & パンフレット リスト

凡例

- 1、文献 No.1の朴慶植『朝鮮人強制連行の記録』（1965年）の文献目録以降のものについて発行年月順に集録した。復刻されて出版された資料集についてはそれ以降のものについても省略した。
- 2、「花岡事件」については、文献 No.53の田中宏他『中国人強制連行の記録』を参照のこと。
- 3、とりあえずまとめたもので遺漏があると思う。追加してくださいれば幸いです。



単行本 & パンフレット リスト

	書名	著者名	発行	発行年月	版型	頁
1	軍の暴行—中国人強制連行事件の記録—	中国人強制連行事件資料編集委員会編	新日本出版社	1964-03	B6	319
2	朝鮮人強制連行の記録	朴慶植	未來社	1965-05	46	341
3	第二次大戦時中韓朝鮮人強制連行虐殺真相調査団報告書	同会	同会	1972-10	A5	60
4	ホッカイドー！ホッカイドー！生きて再び帰れぬ地、朝鮮人強制連行	北海道在日朝鮮人の人権を守る会	同会	1972-11	A5	78
5	太平洋戦争下における三井鉱山と中国・朝鮮人労働者—その強制連行と奴隷労働—	新藤東洋男	人権民族問題研究会	1973		
6	朝鮮・ヒロシマ・半日本人—わたくしの旅の記録—	朴秀南	三省堂	1973		
7	樺太抑留朝鮮人問題資料集	「樺太」委員会編	同会	1974-02	A5	90
8	北海道空知における中国人強制連行問題（龍亨副）	給木学	同会	1974-03		
9	オモニおいたいよ—九州朝鮮人強制連行真相調査を終えて	朝鮮日報社編	在日本朝鮮人総連合会	1974-09	A5	40
10	鐵道の海峡・消えた被爆朝鮮人徴用工246名	深川宗俊	現代史出版会	1974-09	46	246
11	朝鮮人強制連行強制労働の記録・北海道千島樺太篇	朝鮮人強制連行真相調査団	現代史出版会	1974-10	46	683
12	樺太裁判資料（1）	樺太裁判実行委員会編	同会	1975	A5	77
13	証言・朝鮮人強制連行	金賢汀	新人物往来社	1975-03	B6	257
14	樺太（第2次）の身世打合	樺太抑留帰還韓国人に協力する妻の会・同会	同会	1975-05	A5	24
15	東北朝鮮人強制連行の突進—新聞報道資料—	東北地方朝鮮人強制連行真相調査団	同会	1975-10	B5	88
16	証言記録 従軍慰安婦・看護婦—戦場に生きた女の慟哭—	広田和子	新人物往来社	1975-11	B6	246
17	天皇制国家と在日朝鮮人	朴慶植	社会評論社	1976-07	B6	320
18	増補・中国人強制連行事件—東川事業場の記録—	金巻 雄雄	みやま書房	1976-08	B6	189
19	朝鮮人慰安婦と日本人	吉田清治	新人物往来社	1977-03	46	227
20	わが夕張—知られざる脱獄の歴史—	夕張働くものの歴史を記録する会編	煉瓦社	1977-07		
21	相模湖ダム of の歴史—中間報告—（第2刷）	相模湖ダムの歴史を記録する会	同会	1977-12	B5	108
22	近代民衆の記録—in 在日朝鮮人	小沢宥作編	新人物往来社	1978-12	A5	673
23	雨の慟哭・在日朝鮮人土工の記録	金賢汀	田畑書店	1979-02	46	246

単行本 & パンフレット リスト

	書名	著者名	発行	発行年月	版型	頁
24	火の勸哭・在日朝鮮人流夫の記録	金賢汀	田畑書店	1980-01	46	212
25	赤蓮下の朝鮮人叛乱	内海愛子・村井吉敬	勁草書房	1980-07	B6	276
26	九州朝鮮人強制連行の実態	山田昭次	筑豊と共闘する会	1991-05	B5	50
27	強制連行強制労働・坑夫の記録	林えいだい	現代史出版会	1981-12	46	274
28	近代北海道史研究序説(第4章北海道開拓と朝鮮人労働者 138P)	森原真人	北海道大学図書刊行会	1982-05	A5	496
29	朝鮮人B C級戦犯の記録	内海愛子	勁草書房	1982-06	B6	295
30	はるかなる海峡・森岡武雄物語	森岡武雄	民衆史道連出版部	1982-07	B6	264
31	戦争の備前 地下軍事工場の記録(資料集2)	戦争の記録を残す高槻市民の会	同会	1982-07	B5	72
32	私の戦争犯罪・朝鮮人強制連行	吉田清治	三一書房	1983-07	46	182
33	キム十字架一松代大本営地下壕のかけがえなし	和田登	ほるぷ出版	1983-08	?	119
34	サハリソンの朝鮮人の一時帰国を実現するために	サハリソンの朝鮮人一時帰国実現の会編	同会	1984-05	A5	43
35	わか街たかつきの戦争の記録(資料集3)	戦争の記録を残す高槻市民の会	同会	1984-07	B5	100
36	比企一比企地方の地下軍事施設一(部隊第3号)	橋玉果立清川高校郷土部	同会	1984-08	B5	91
37	怨と恨と故国と一わが子に紐る在日朝鮮人の記録一	鄭清正	日本エッセイターズ出版	1984-10	46	232
38	戦争一聞からの叫び一(中興飛行機大宮製作所の設立経緯と実態)	大宮北高校朝文研編	同会	1985-02		
39	故郷はるかに一常磐炭坑の朝鮮人労働者との出会い一	石田真弓	アジア問題研究所	1985-04	A5	292
40	国鉄松前線敷設工事に伴う朝鮮人・中国人らの強制労働	渡利政俊	国鉄松前線敷設工事列強者誌 臺灣連立発起人会	1985-05	A5	33
41	霧の中の祖国	森岡武雄	空知民衆史講座	1985-06	B6	360
42	奈良・在日朝鮮人史 1910-1945	川瀬俊治	奈良・在日朝鮮人の教育を考 える会	1985-08	B6	344
43	兵庫と朝鮮人	兵庫朝鮮関係研究会	ツツジ印刷	1985-08	A5	225
44	朝鮮人被爆者とは一かくされた真実一	岡正治・高実康稔	長峰在日朝鮮人の人権を守る 会	1986-03	S1N	96

単行本 & パンフレット リスト

	書名	著者名	発行	発行年月	版型	頁
45	解制と資料 松代大本営 (学習資料1)	松代大本営資料研究会	同会	1986-06		
46	協和会—戦時下朝鮮人統制組織の研究—	樋口雄一	社会評論社	1986-07	B6	258
47	資料と解説・松代大本営	松代大本営資料研究会編	同会	1986-08	B5	92
48	写真万葉集・筑豊9 アリラン峠	上野英信・趙根在監修	葎書房	1986-08	B6	174
49	友好無窮—豊川海軍工廠韓国人犠牲者の慰霊と墓参団招請にあたって—	豊川海軍工廠韓国人犠牲者慰霊実行委員会編	同会	1986-08	B5	47
50	遙かなる旅・戦後史の谷間から	山根昌子	銀河書房	1986-08	46	308
51	世の墓標—朱鞠内・ダム工事掘りおこし (第2刷)	「世の墓標」編集委員会	空知民衆史講座	1986-09	B6	130
52	天皇制国家と在日朝鮮人 (増補改訂版)	朴慶植	社会評論社	1986-10	B6	348
53	資料・中国人強制連行	田中宏・内海愛子・石飛仁	明石書店	1987		
54	歴史教育長野年報7 (特集 朝鮮人強制労働)	長野県歴史教育者協議会編	同会	1987-01		
55	アボジがこえた海	李興望	葎書房	1987-04	A5	192
56	松代大本営ガイドブック ツツシロへの旅	松代大本営の保存をすすめる会	同会	1987-06	A6	26
57	世—朝鮮人軍夫の沖繩戦—	海野福寿・権丙卓	河出書房新社	1987-07	B6	235
58	図録・松代大本営—幻の大本営の秘密を探る	和田登編著	郷土出版社	1987-07	B5	174
59	待ちわびるハルモニたち—サハリンに残された韓国人留守家族—	高木健一編著	梨の木舎	1987-07	A5	223
60	吉見百穴地下軍事工場資料プリント	大宮北高校期文研編	同会	1987-08		
61	姫山と朝鮮人強制連行	金慶海他	明石書店	1987-08	B6	169
62	比企—本土決戦と幻の地下指令部— (部隊第5号)	埼玉県立滑川高校郷土部	同会	1987-08	B5	118
63	もうひとつの現代史序説—朝鮮人労働者と「大日本帝国」—	川瀬俊治	ブルー・センター	1987-10	A5	358
64	強制連行を考える会・あゆみの記録 (徳香碑)			1988	B5	98
65	アボジ聞かせてあの日のことを—“我々の歴史を取り戻す運動”報告書—	在日本大韓民国居留民団青年会編	同会中央本部	1986-02	B5	324
66	戦時下常盤炭田の朝鮮人犠牲者名簿 1930.10~1946.1	長澤秀	長澤秀 (個人出版)	1986-02	B6	56
67	続・掘る—地下伏流を溯流に	民衆史連連、株掘る編集委員会編	民衆史連連出版部	1989-02	B6	388

単行本 & パンフレット リスト

	書名	著者名	発行	発行年月	版型	頁
68	朝鮮海峽・深くて開いた歴史	林えいだい	明石書店	1989-03	B6	340
69	閩釜連絡船―海峽を渡った朝鮮人―	金賢汀	朝日新聞社	1988-05	B6	209
70	僕らの街にも戦争があった―長野県の戦争遺跡―	長野県歴史教育者協議会編	銀河書房	1988-08	A5	179
71	祖国へ！―サハリンに残された人たち―	北海道新聞社編	北海道新聞社	1988-09	B6	277
72	今も聞える藻岩の叫び	札幌郷土を振る会	同会	1988-11	B6	149
73	悲しみを繰り返さぬここに真実を刻む	東南海道歴史・旧三菱名航海工場犠牲者調査連絡実行委員会編	同会	1988-12		
74	戦時下広島県高尾ダムにおける朝鮮人強制労働の記録	東北の現代史を調べる会編	三次地方史研究会	1989-07	B6	102
75	海峽の波高く・札幌の朝鮮人強制運行と労働	札幌郷土を振る会	同会	1989-08	B6	135
76	消された朝鮮人強制運行の記録・閩釜連絡船と火床の坑夫たち	林えいだい	明石書店	1989-08	A5	733
77	日本海地域の在日朝鮮人―在日朝鮮人の地域研究―	内藤正中	多賀出版	1989-09	A5	312
78	中国人強制運行と花岡健起	中国人強制運行を考える会	同会	1989-11	A5	104
79	朝鮮人被害者―ナガサキからの証言―	長崎在日朝鮮人の人権を守る会	社会評論社	1989-12	B6	309
80	解放の日まで(写真資料集)	辛基秀	曹丘文化ホール	198?	A4	29
81	ビットム・地下軍需工場建設と朝鮮人強制運行の記録	資料集「ビットム」を出版する会	同会	1990-01	B5	124
82	サハリンと日本人の責任	高木健一	郵風社	1990-02	B6	258
83	スンパコッチェル(かくれんぼ)	天理市同和教育研究会編	同会	1990-07	B5	102
84	生徒たちのマツシロ大本營	篠ノ井旭高校郷土班・土屋光男編	郷土出版社	1990-07	B6	184
85	地下工場と朝鮮人強制運行	兵庫朝鮮関係研究会編	明石書店	1990-07	A5	256
86	百済古念佛寺の謎を解く(第四章朝鮮人殉難者問題ほか)	崔晃林	崔晃林(個人出版)	1990-07	A5	202
87	《韓日合邦》80年、祖国解放45年 強制運行、蔑視と虐待の現場(『南朝鮮情勢資料』8号別冊)		朝鮮問題研究所	1990-08	B6	76
88	強制運行された朝鮮人の証言		朝鮮人強制運行真相調査団編 明石書店	1990-08	A5	267

1	朝鮮人強制連行の記録(1965年)	田中宏他	1965
2	「花岡事件」については、文献 No.53の田中宏他『中国人強制連行の記録』を参照のこと。		1970
3	3、サハリン、南洋諸島などへの強制連行については省略し、強制労働の現場が日本列島(かつて「本土」といった)のものに限った。戦後補償の問題についても、基本的に省略した。		1970
4	4、とりあえずまとめたもので遺漏があると思う。追加してくださいませ幸いです。		1970
5	凡例		
6	1、文献 No.1の朴震植『朝鮮人強制連行の記録』(1965年)の文献目録以降のものについて発行年月順に集録した。資料として紹介されたものについてはそれ以降発表されたものについても省略した。		
7	2、		
8	3、		
9	4、		
10	論文リスト		
11	1、		
12	2、		
13	3、		
14	4、		
15	5、		
16	6、		
17	7、		
18	8、		
19	9、		
20	10、		
21	11、		
22	12、		
23	13、		
24	14、		
25	15、		
26	16、		
27	17、		
28	18、		
29	19、		
30	20、		
31	21、		
32	22、		
33	23、		



論文リスト

	文献表題	著者名	雑誌名	巻号	運巻	発行所名	発行年月	頁
1	第二次大戦下、朝鮮人強制運行と労務対策	依田 嘉家	社会科学討究	17	3	早稲田大学		25
2	在日朝鮮人の歴史について—朝鮮人の強制運行を中心に—	朴 慶 植	朝鮮研究月報		12	日本朝鮮研究所	1962-12	8
3	太平洋戦争時における朝鮮人強制運行	朴 慶 植	歴史学研究		297	青木書店	1965-02	15
4	日本帝国主義下における植民地労働者—在日朝鮮人・中国人労働者を中心として—	松村 高夫	経済学年報		10	慶応義塾大学	1967	
5	太平洋戦争前後における炭鉱労働者—石炭連合会資料を中心に—	田中 直樹	三田経済学研究		2		1968	
6	第二次大戦前後の炭鉱における朝鮮人労働者—石炭連合会資料を中心に—	田中 直樹	朝鮮研究		72	日本朝鮮研究所	1968-04	15
7	太平洋戦争下における中国人強制運行と抵抗	實井 美都子	歴史評論		217	歴史科学協議会	1968-09	
8	戦時下における炭鉱労働者について—労働力構成を中心に—	田中 直樹	社会科学研究紀要		9	慶応義塾大学	1969	
9	朝鮮人強制運行—体験者のききがきから—	朴 寿 南	『ドキュメント日本人』第8巻 ソングヒューマン			学芸書林	1969	
10	戦時中の空知における朝鮮人・中国人の強制労働の実態	供野 周夫	歴史地理教育		214		1973-08	
11	朝鮮人・中国人の強制運行と労働	小池 晋孝	『続貂—自由民権と四人労働の記録—』			現代史資料センター出版会	1973-08	
12	知られざる朝鮮人強制運行	朴 慶 植	全電通文化		92	全電通労組中央本部	1974-01	
13	北海道—強制運行の生証人—	藤島 宇内	現代の眼	15	2		1974-02	
14	日本帝国主義の朝鮮同胞強制運行と虐待の実態について(上)	琴 乘 洞	月刊朝鮮資料		159	朝鮮問題研究所	1974-08	
15	日本帝国主義の朝鮮同胞強制運行と虐待の実態について(下)	琴 乘 洞	月刊朝鮮資料		160	朝鮮問題研究所	1974-09	
16	太平洋戦争下の朝鮮人強制運行と日韓問題—九州地方の調査から—	山田 昭次	法学セミナー		232	日本評論社	1974-12	11
17	私の在日五十年—ある朝鮮人の歩み—	平林 久枝	季刊三千里		2	三千里社	1975-05	10
18	東北地方における朝鮮人強制運行・強制労働—宮城・岩手両県を中心に—	中塚 明	統一評論		128	統一評論社	1975-11	8
19	東北地方における朝鮮同胞強制労働と虐待の実態について(上)	琴 乘 洞	月刊朝鮮資料		179	朝鮮問題研究所	1976-04	
20	東北地方における朝鮮同胞強制労働と虐待の実態について(中その1)	琴 乘 洞	月刊朝鮮資料		183	朝鮮問題研究所	1976-08	
21	東北地方における朝鮮同胞強制労働と虐待の実態について(中その2)	琴 乘 洞	月刊朝鮮資料		184	朝鮮問題研究所	1976-09	
22	筑豊のアリラン峠—朝鮮人強制運行問題調査の中心的課題—	山田 昭次	分権・独立運動情報		2		1977	

論文リスト

	文献要目	著者名	雑誌名	巻号	通巻	発行所名	発行年月	頁
23	「朝鮮人狩り」と千島強制労働	金 龍 化	『語り出した民衆の記録—オホーツク民衆史—』				1977-01	
24	常盤炭田における朝鮮人労働者について	長澤 秀	皇台史学		40	明治大学	1977-03	
25	協和会と朝鮮人の世界—戦時下在日朝鮮人の抵抗について—	樋口 雄一	海峽		6	朝鮮問題研究会	1977-07	11
26	日本帝国主義の崩壊と“移入朝鮮人労働者”—石炭産業における—事例研究—	戸塚 秀夫	『日本労使関係論』			東京大学出版会	1977-09	71
27	朝鮮人強制連行の一断面—広島県比婆郡高基ダムを訪ねて—	豊 津 哲	統一評論		149	統一評論社	1977-10	6
28	硫黄島で九死に一生を得て—連行された崔福萬さんの体験談から—	宋 嶋 陳	統一評論		150	統一評論社	1977-11	9
29	戦後日本労働運動史記述における在日朝鮮人労働運動像—戦時「蜂起」記述について—	松永 洋一			1	同会	1977-12	6
30	第二次大戦中の植民地鉱業労働者について—日本鉱業株式会社資料を中心に—	長澤 秀	在日朝鮮人史研究		1	同会	1977-12	10
31	わが炭鉱労務管理を語る	木山 茂彦	東北経済		64	福島大学	1978	
32	常盤炭田を中心とした戦中期朝鮮人労働者について	大塚 一二	東北経済		64	福島大学	1978-03	
33	日本軍と朝鮮人	藤原 彰	季刊三千里		14	三千里社	1978-05	7
34	常盤炭田における朝鮮人労働者の闘争—1945年10月—	長澤 秀	在日朝鮮人史研究		2	同会	1978-06	12
35	鉱山での1945年	西野 辰吉	季刊三千里		15	三千里社	1978-08	6
36	北海道における在日朝鮮人史	桑原 真人	『近代民衆の記録①—在日朝鮮人』			新人物往来社	1978-12	31
37	戦時下常盤炭田の朝鮮人労働者について	山田 昭次	『近代民衆の記録①—在日朝鮮人』			新人物往来社	1978-12	10
38	日帝の朝鮮人炭鉱労働者支配について—常盤炭鉱株式会社を中心に—	長澤 秀	在日朝鮮人史研究		3	同会	1978-12	25
39	戦時期における朝鮮人鉱夫の雇傭状態—筑豊炭山の事例を中心に—	田中 直樹	『近代民衆の記録①—在日朝鮮人』			新人物往来社	1978-12	37
40	中国人・朝鮮人強制連行研究史試論	山田 昭次	『朝鮮歴史論集・下巻』			龍溪書舎	1979-03	24
41	大館市花岡の鉱山歴史資料館設立運動	山田 昭次	朝鮮研究		188	日本朝鮮研究所	1979-04	7
42	ある朝鮮人炭鉱労働者の回想	長澤 秀	在日朝鮮人史研究		4	同会	1979-06	30
43	戦時下日本帝国主義の朝鮮農村労働力収奪政策	藤 成 銀	歴史評論		355	歴史科学協議会	1979-11	

論文リスト

	文献表題	著者名	雑誌名	巻号	通巻	発行所名	発行年月	頁
44	日帝の朝鮮人強制労働者支配について(続)——常盤炭鉱株式会社を中心に——	長澤 秀	在日朝鮮人史研究	5	同会		1979-12	11
45	いまも忘れぬタゴ部屋での労働と生活——北極道帯広飛行場建設工事——	平林 久枝	在日朝鮮人史研究	5	同会		1979-12	13
46	朝鮮人強制連行調査の旅から	山田 昭次	季刊三千里	21	三千里社		1980-02	6
47	朝鮮人労働者募集の一裏面	森原 真人	歴史公論	6	8		1980-08	
48	私の在日朝鮮人史研究	森原 真人	季刊三千里	24	三千里社		1980-11	4
49	筑豊の在日朝鮮人戦後史	林 えいだい	季刊三千里	24	三千里社		1980-11	8
50	日立鉱山朝鮮人強制連行の記録——解説と証言——	山田 昭次	在日朝鮮人史研究	7	同会		1980-12	16
51	福島県西部地方朝鮮人強制連行の記録——高玉鉱山・与内鉱山・大宮鉱山の朝鮮人強制連行とその後——	山田 昭次	在日朝鮮人史研究	9	同会		1981-12	28
52	奥天竜における朝鮮人強制連行	深田登・永井大介	季刊三千里	29	三千里社		1982-02	14
53	海がほけた！——山口県長生炭坑遭難の記録——	樫村 秀樹	在日朝鮮人史研究	10	同会		1982-07	16
54	敗戦前、山梨県白根町に採用で連行された朝鮮人	平林 久枝	在日朝鮮人史研究	10	同会		1982-07	6
55	朝鮮人強制連行の研究——その回顧と展望——	山田 昭次	季刊三千里	31	三千里社		1982-08	10
56	新潟県における朝鮮人ノート	佐藤 泰治	新潟近代史研究	3			1982-10	
57	新潟港湾労働における朝鮮人強制連行・強制労働——証言をもとに——	菅 晋 著	新潟近代史研究	3			1982-10	
58	松代大本営工事回顧	吉田 栄一	軍事史学	20	2	軍事史学会	1983	14
59	おばきたい「タチノ作戦」	宇津木 秀甫	季刊三千里	35	三千里社		1983-08	4
60	戦時中の田奈部隊弾薬庫をつくりの朝鮮人労働者——「こどもの園」から——	三田 登美子	在日朝鮮人史研究	12	同会		1983-09	11
61	身近にある強制連行の足跡	朴 慶 植	「多摩川と在日朝鮮人」			ムルシの会	1984-02	11
62	消えた鉱山	岡崎 元哉	季刊三千里	39	三千里社		1984-08	5
63	静岡県における戦前・戦中の在日朝鮮人の労働争議等(付・年表)	枝村 三郎	静岡県近代史研究	11		静岡県近代史研究会	1985-09	35
64	在日朝鮮人労働者の賠償要求と政府および資本家団体の対応	古庄 正	社会科学討究	31	2	早稲田大学	1986-01	26
65	日本海地域における在日朝鮮人の形成過程(1)	内坂 正中	経済科学論集	11		島根大学	1986-03	31
66	時効のないあしあと——朝鮮人強制連行この地方の現場——(その4豊川協軍工廠)		「日本と朝鮮(愛知版)」	80		日朝協会愛知県連合会	1986-06	

論文リスト

	文献表題	著者名	雑誌名	巻号	通巻	発行所名	発行年月	頁
67	時効のないあしあと—朝鮮人強制連行この地方の現場—(その5 豊川海軍工廠<続>)		『日本と朝鮮(愛知版)』		81	日朝協会愛知県連合会	1986-07	
68	時効のないあしあと—朝鮮人強制連行この地方の現場—(その6 豊川海軍工廠<続>)		『日本と朝鮮(愛知版)』		82	日朝協会愛知県連合会	1986-08	
69	8・15直後の朝鮮人献夫の闘い	長澤 秀	いわき地方史研究		23	いわき地方史研究会	1986-08	10
70	松代「大本營」と強制連行—信州からのレポート—	和田 登	季刊三千里		47	三千里社	1986-08	6
71	神奈岐山(兵庫県豊岡市)を訪ねて	洪 祥 進	同胞と社会科学		1	在日本朝鮮社会科学者協会 西日本本部	1986-10	6
72	江陵・興南・大夕張—ある在日朝鮮人の記憶—	三田 登美子	在日朝鮮人史研究		16	同会	1986-10	15
73	久須部岫山・竹野岫山と朝鮮人	糸 根 植	同胞と社会科学		1	在日本朝鮮社会科学者協会 西日本本部	1986-10	6
74	戦時下南樺太の強制連行朝鮮人献夫について	長澤 秀	在日朝鮮人史研究		16	同会	1986-10	38
75	朝鮮人部落のルーツを訪ねて	鄭 鴻 永	同胞と社会科学		1	在日本朝鮮社会科学者協会 西日本本部	1986-10	12
76	日本海地域における在日朝鮮人の形成過程(II)	内藤 正中	経済科学論集		12	鳥根大学	1986-10	29
77	高森ダムに思う	山代 邑	季刊三千里		48	三千里社	1986-11	4
78	新潟県における朝鮮人労働者の処遇	佐藤 泰治	魚沼文化		27	魚沼文化の会	1987-02	17
79	地図にないアリアンツ時—朝鮮人強制連行の実態—	林 えいだい	季刊三千里		49	三千里社	1987-02	18
80	戦時体制下における山陰地方の在日朝鮮人	内藤 正中	山陰地方研究(農山村)		3	鳥根大学山陰地域研究総合センター	1987-03	15
81	戦時下の朝鮮人労働者連行政策の展開と労資関係	遠藤 公陽	歴史学研究		567	青木書店	1987-05	33
82	西谷村に眠る朝鮮人たち—神戸水運建設工事のかけこし—	鄭 鴻 永	同胞と社会科学		2	在日本朝鮮社会科学者協会 西日本本部	1987-05	13
83	まつくら—朝鮮人強制労働の実態—	林 えいだい	季刊三千里		50	三千里社	1987-05	21
84	戦前・戦時下の下伊那における朝鮮人労働者の掘り起こし	原 英重	伊那		709	伊那史学会	1987-06	10
85	戦時下常盤炭田における朝鮮人献夫の労働と闘い	長澤 秀	史苑	47	1	立教大学	1987-06	
86	強制連行に関する遠藤論文を批判する	長澤 秀	アジア問題研究所		2	アジア問題研究所	1987-08	12

論文リスト

	文献主題	著者名	雑誌名	巻号	通巻	発行所名	発行年月	頁
87	朝鮮人強制労働の歴史的前提—筑豊炭田を主な事例として— 「皇民化」政策と伊丹の「協和会」の活動について	山田 昭次 鄭 鴻 永	在日朝鮮人史研究 同胞と社会科学	17	同会 3	同会 在日本朝鮮社会科学者協会 日本本部	1987-09 1988-01	36 14
89	朝鮮人重夫の沖縄戦	海野 福寿	総合史学	73	明治大学	明治大学	1988-03	31
90	京都府協和会と学治の在日朝鮮人	千本 秀樹	歴史人類	16	筑波大学	筑波大学	1988-03	31
91	朝鮮人強制連行とその労働・生活—岩手県・六黒見鉱山のばあい—	相沢 一正	『近代日本社会発達史論： 「旧日本植民地経済統計— 推計と分析—」』			ベリカン社 東洋経済新報社	1988-03 1988-07	7
92	朝鮮からの対日移民	松本 俊郎						
93	松代大本営問題	大日方 悦夫	歴史評論				1988-08	6
94	日本における労働力移入におよぶ歴史と現実	田中 宏	季刊労働法	149	総合労働研究所	総合労働研究所	1988-10	
95	戦前期日本海地域の朝鮮人労働者	内藤 正中	経済科学論集	15	島根大学	島根大学	1988-02	
96	消された強制連行の記録	小林 慶二	アエラ	30	朝日新聞社	朝日新聞社	1989-07-18	5
97	日本釜金属礦による富士川水電工事と朝鮮人	金 浩	在日朝鮮人史研究	19	同会	同会	1989-10	39
98	新潟県と朝鮮人強制連行	長澤 秀	在日朝鮮人史研究	19	同会	同会	1989-10	24
99	沖縄戦で死んだ朝鮮人	海野 福寿	季刊青丘	2	青丘文化社	青丘文化社	1989-11	6
100	雷に遭った朝鮮人強制連行—北海道・朱鞠内タムの遺骨掘り起こし運動—	高 賀 侑	ミレ	10	パン・パブリッシング	パン・パブリッシング	1989-12	4
101	「松代大本営」の建設に関する研究	青木 孝寿	長野県短期大学紀要	44	長野県短期大学	長野県短期大学	1989-12	11
102	戦時労働力統制の形成過程に関するノート—「労働動員計画」をめぐる—	廣江 彰	札幌学院商経論集	6	1	札幌学院大学	1989-12	15
103	山陰の強制連行朝鮮人	内藤 正中	自治研叢報	258	鳥浜地方自治研究センター	鳥浜地方自治研究センター	1990-06	8
104	「朝鮮人強制連行」の概念について	金 英 達	むくげ通信	121	むくげの会	むくげの会	1990-07	2
105	過去の“反省”とはどういうことか—朝鮮人強制連行者名簿問題を中心に—	吉岡 吉典	文化評論	354	新日本出版社	新日本出版社	1990-08	15
106	まぼろしの松代大本営の全貌	原 剛	丸 別冊	13	潮書房	潮書房	1990-08	12
107	45年目の真実—朝鮮人徴用工3人の死・天理御本飛行場—	川瀬 俊治	ミレ	14	パン・パブリッシング	パン・パブリッシング	1990-09	3

帖合

帖合

発行所名	神戸学生青年センター出版部 Ⅱ (078)851-2760		
書名	冊	冊	冊
書名	冊	冊	冊
注文者氏名 (TEL)			

発行所名	神戸学生青年センター出版部 Ⅱ (078)851-2760		
書名	冊	冊	冊
書名	冊	冊	冊
注文者氏名 (TEL)			



朴慶植・水野直樹・内海琴子・高崎宗司

天皇帝と朝鮮

昭和天皇の死は、改めて天皇の戦争責任問題をうかびあがらせた。戦争責任は朝鮮に関し
て言えば、それは植民地支配責任の問題とな
る。第一線の学者が「天皇帝と朝鮮」に迫る。

(A5判／一七二頁／二〇〇円)

朴慶植・張錠壽・梁永厚・姜在彦

体験で語る 解放後の在日朝鮮人運動

一九四五年八月の日本敗戦・朝鮮解放後の激
動の時代を中心に在日朝鮮人運動を体験的に
語った貴重な記録。巻末に当時日本語で出版
された「民主朝鮮」「朝鮮評論」等の総目次
を収録。

(A5判／二〇頁／一五〇円)

仲村修・雄正麻・しかたしん

児童文学と朝鮮

第二線の研究者と日朝の作家が語ったセミナ
ーの記録に、朝鮮を扱った児童文学作品リス
ト・年譜を付す。朝鮮問題への新しいアプロ
ーチを求める小中高の先生には必読の書。

(A5判／二六頁／一〇〇円)

※右は、消費税抜きの価格です。

※全国どの書店でも注文できます。

左の注文書をお近くの書店にお出し下さい。

神戸学生青年センター出版部
〒657 神戸市灘区山田町3-1-1
TEL(078)851-2760
FAX(078)821-5878

梶村秀樹
解放後の在日朝鮮人運動

現在の在日朝鮮人問題を考える上で、その「原点」をなす1945年8月15日の解放から65年の日韓条約締結までの時期の在日朝鮮人運動を概観した朝鮮史セミナーの講演録。
A 5判 103頁 600円

田中玄・山本冬彦
現在の在日朝鮮人問題

「人管体制の現段階」「外国人登録法と日本人(田中)」「在日朝鮮人と社会保障(山本)」よりなる講演録。1982年の人管法の「改正」後の法的地位の問題点を簡潔に論じている。
A 5判 94頁 500円

金澤海・梁永厚・洪祥進
在日朝鮮人の民族教育

1948年4月にGHQ占領下で唯一「非常事態宣言」が発せられた阪神教育闘争のドキュメントと民族教育の現状を語ったセミナーの記録。民族教育の歴史と現状を知るための好書。
A 5判 91頁 600円

中塚明・朝鮮語講座上級グループ
教科書検定と朝鮮

1983年の「教科書問題」当時の「東亜日報」「朝鮮日報」の主要記事を翻訳し、中塚明の講演録も収録。植民地下の朝鮮人の生の証言を集めた「その真相」に迫りがある。
A 5判 205頁 900円

新美隆・小川雅由・佐藤信行ほか
指紋制度を問う

在日朝鮮人を中心とした指紋押捺拒否の闘いは日本の国際化の内実を問う闘いでもあった。「季刊三千里」に発表された20篇の論考を収録した本書は外資法問題理解のための必読書。
A 5判 205頁 900円

梁泰昊
サムン宣言

「アサン港へ帰れない」の著者の法廷陳述。民族差別と闘う運動を続けてきた筆者が指捺拒否の行為が在日朝鮮人の「サラム(朝鮮語でにんげんの意)宣言である」と熱く語る。
A 5判 92頁 500円

山口光朝・笹原秀光・内田政秀・佐治孝典・土肥昭夫
賀川豊彦の全体像

生涯百年で注目された賀川豊彦は一方で部落差別の体質が問われている。アルチ人間・賀川の人物像、文学、宗教思想、社会運動、部落差別とキリスト教伝道に関する論考を収録。
A 5判 180頁 1,400円

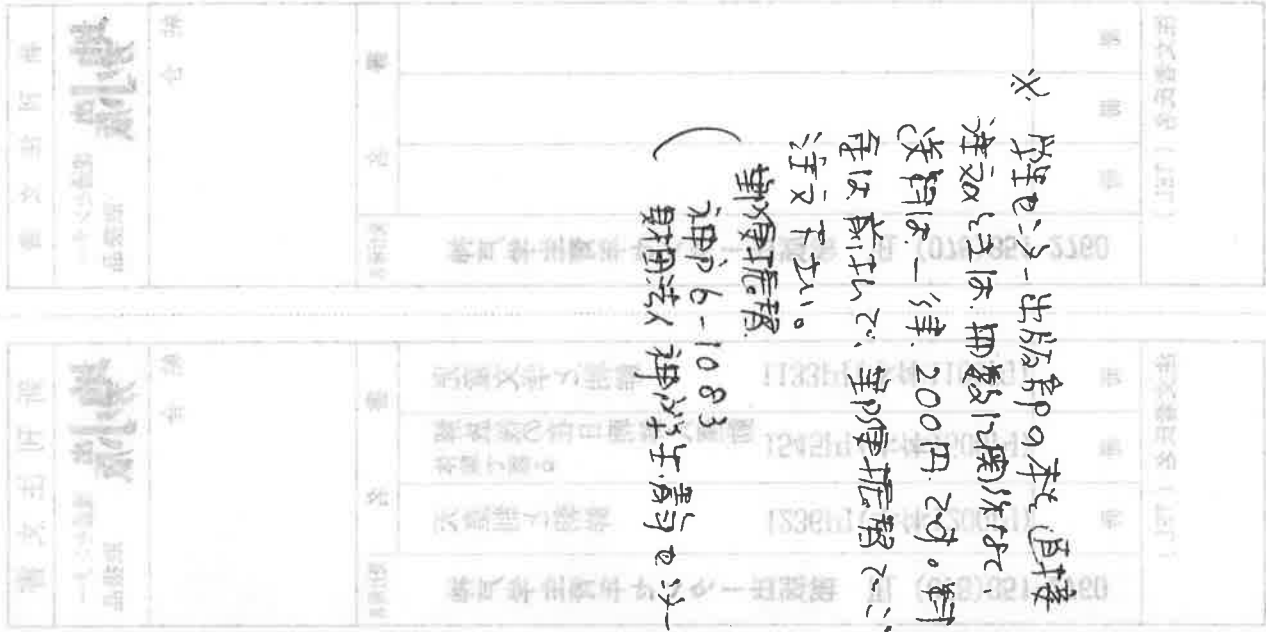
白井晴美・坂本玄子・谷秘保・高橋就正
今、子供に何が起きているのか

現場で活躍している栄養士・看護教諭、カウンセラー、医師が、子供のころ、からの問題の語った食品公害セミナーの記録。学校給食、新生児にみる異常の異議は何か。
A 5判 158頁 600円

竹熊宣孝・山中栄子・石丸修・梁瀬義亮・丸山博
医と食と健康

食品公害の蔓延しているこの時代に薬にたよらない体づくりを実践している医師が語る。食べもの健康と小児科医よりみた子供の健康、生命と食と現代病と食生活は何か。
A 5判 132頁 600円

（ 悪税抜き価格です。全国どここの書店でも注文できます。 ）
『地方小出版流通センター扱いの☆☆☆☆』と申し込んで下さい。





中華民國二十九年一月一日

（此處為模糊不清之文字，可能為出版資訊或序言內容）



1990 朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働 資料集

1990年8月25日 第1刷発行(300部)

編集 金英達、飛田雄一 表紙・カット 宋貴実子

発行 (財)神戸学生青年センター出版部

〒657 神戸市灘区山田町3-1-1

Tel (078)851-2760 FAX (078)821-5878

郵便振替<神戸6-1083>

定価 400円(送料210円)